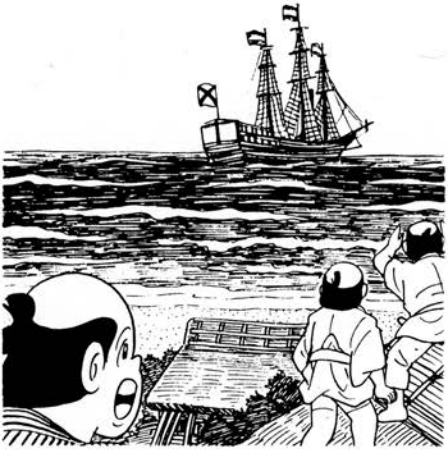
まんが
亀田郷の歴史

まんが
亀田郷の
歴史
亀田郷土地改良区

目次

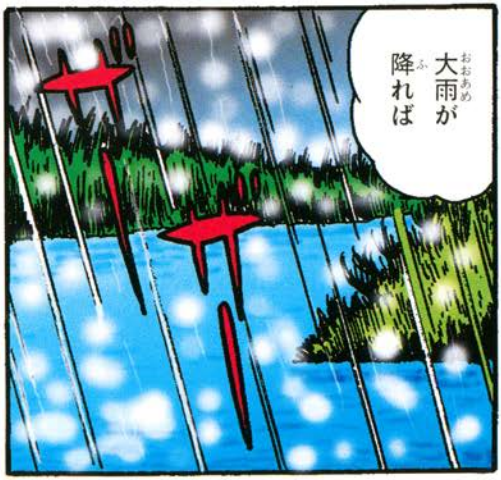
亀田郷の始まり（原始時代）……13
―新潟平野と亀田郷の誕生―
縄文時代（村ができる―狩、漁のくらし）……19
弥生時代（農耕のはじまり）……25
大和朝廷と亀田郷……29
―権力者の出現と古墳づくり、越後の国造り―
奈良、平安時代（二つの津、人々のくらし）……35
武士の世の亀田郷……45
―南北朝の蒲原、上杉謙信・景勝の越後統一―
新発田藩の新田開発……51
信濃川、阿賀野川の合流と四回も移った沼垂町……59
亀田町の誕生と六斎市……65
水との闘い……75
―島とよばれた亀田郷、村人のくらし―
怒る農民……81
阿賀野川堀割……85
―新発田藩と新潟町の対立―
鳥屋野潟のがたがた追い……91
外国船がやってくる……95
亀田郷の明治維新……99
―亀田郷の戊辰戦争―



地租改正の実施、地主王国の光と影……103
水害を防ぐ努力と人々の協力……107
—関屋堀割騒動—
水をへらす努力……113
—新栗ノ木川—
木津切れ、曽川切れ……115
亀田郷水害予防組合ができる……119
大河津分水の完成と阿賀野川の工事……123
大正デモクラシーと立ち上がる農民……127
—農民組合の結成と生産向上への努力—
太平洋戦争と亀田郷の農民……131
生まれ変わる亀田郷……137
—新しい憲法と農地改革—
栗ノ木排水機場の完成……141
—亀田郷土地改良区ができる—
米づくりが変わる……147
—牛馬を使える農業に—
子供たちの生活……151
—子供たちも手伝った農作業・テレビ放送も始まる—
新しい災害……157
—地盤沈下・新潟地震の大被害—

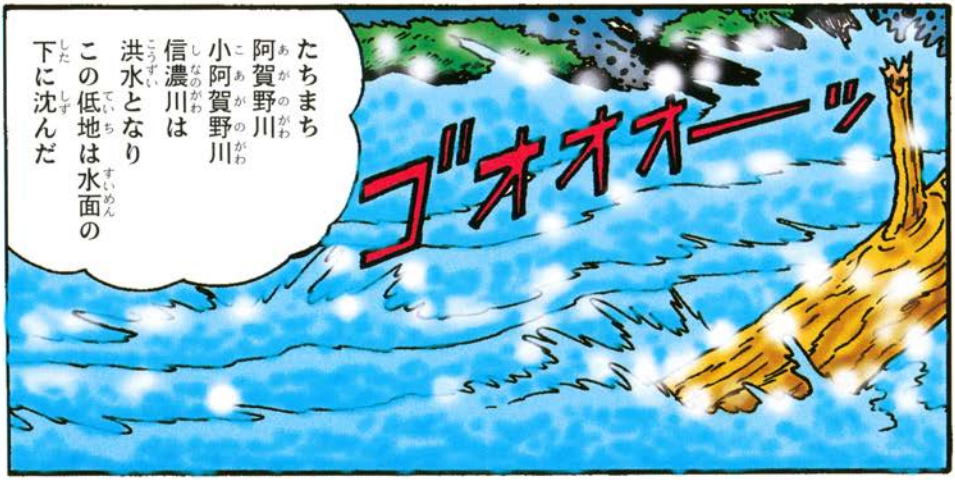
進む洪水対策……161
―親松排水機場と関屋分水の完成―
亀田郷の新しい悩み……162
―都市化による影響―
農業の機械化と兼業農家……164
越の国に光り輝くコシヒカリ……166
よみがえれ鳥屋野潟……167
交通網の整備が進む亀田郷……169
水害に負けないために……172
―湛水を防ぎ農地を守るかんがい―
押し寄せる自由化の波……174
―農産物輸入自由化と農業―
21世紀に向かって……175
―情報化時代―
若者に希望の持てる農業を……179
これからの亀田郷……182
歴史年表……194
あとがき……200

亀田郷は、
日本海側の最大の都市
新潟市の東側の一部と、
亀田町・横越町を
合せた一万一千ヘクタールの
土地で、



低湿地帯＝土地が低く沼地の多い地域。

まわりを
阿賀野川、小阿賀野川
信濃川に囲まれ、
海面より低い土地が
約三分の二もある
低湿地帯である。



潮位＝海水のみちひきによって変わる海面の高さ。

ここに住んでいた農民たちは
荒れた沼地に舟で土を運び入れ
春になると胸まで水につかって田植をし
秋には水の中でイネを刈り取り
収穫したイネは小舟にのせて運び

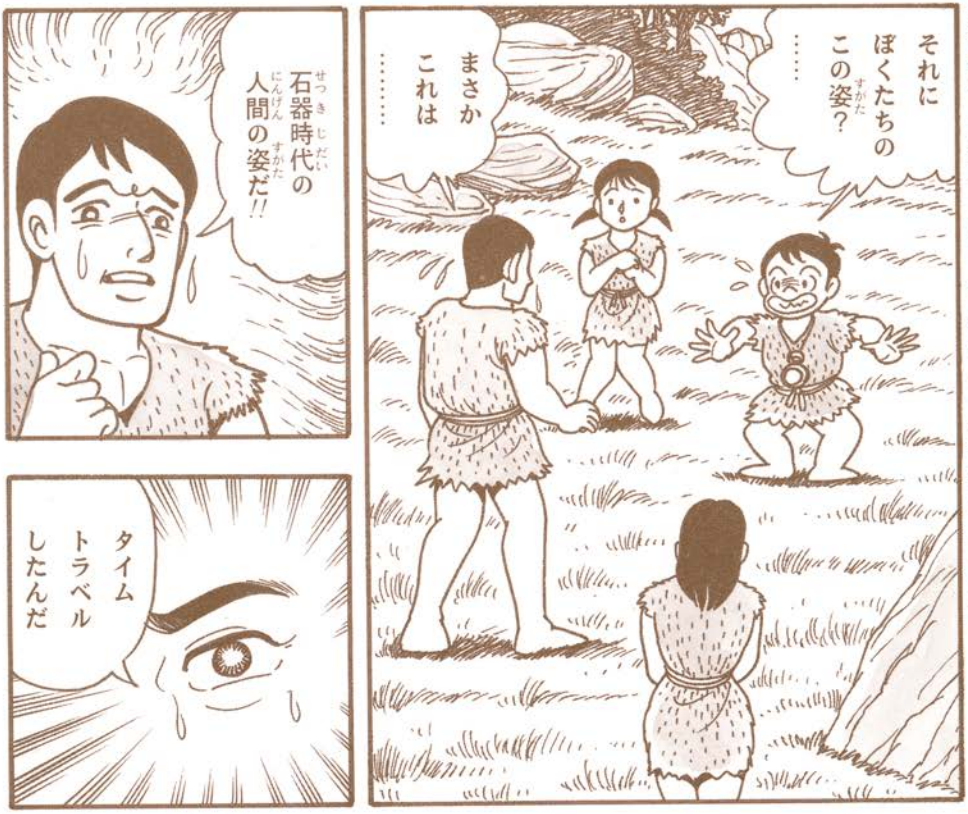
ハサ木＝刈り取ったイネを干すために掛ける木。

イネはくさり
収穫の少ない農民たちは水辺にはえているヒシやクワイ
タニシなどをとって食べることさえあった……
昔の亀田郷の米づくりは
泥の中で行われ水との長い闘いが続いたんだよ
今の亀田郷では考えられないなァ……

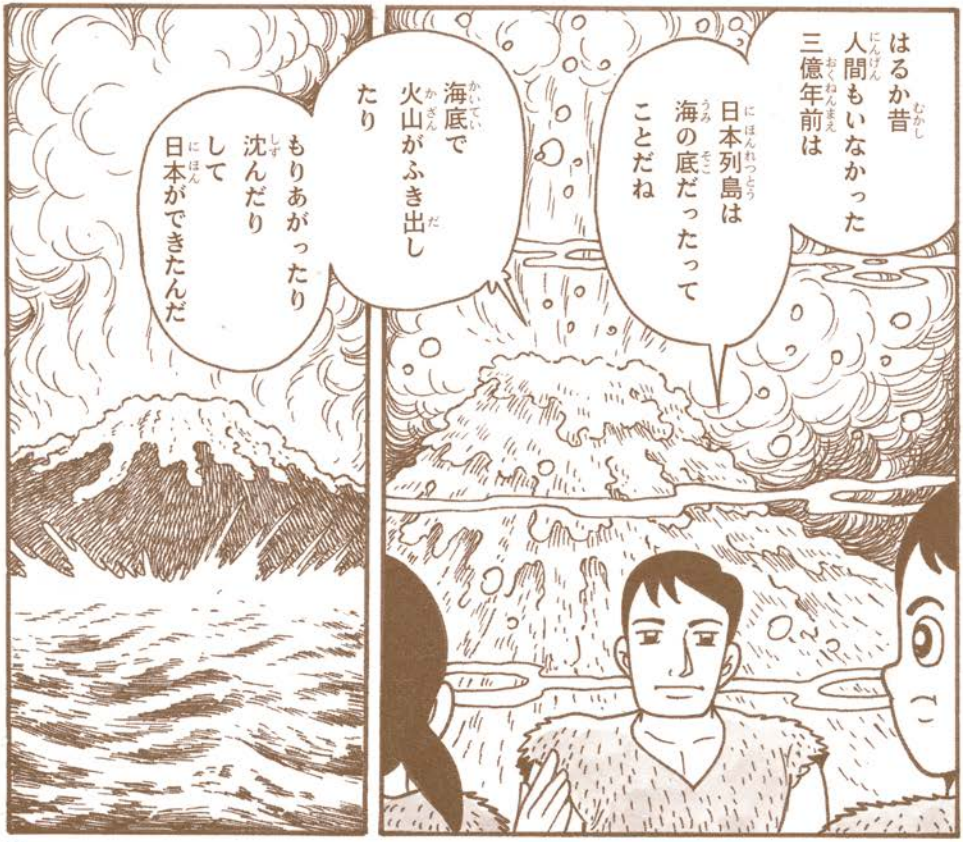
お父さん もっと 亀田郷の 歴史を 話してよ
いいよ おじいちゃんが 書いた古い日記が あるから 日記を読みながら 話そう
古い時計が 入っている よ
カチッ
あれっ こんな時計 あったかなァ ……？
変だよ
ハリが勝手に 逆回りして いる……
な なんだ これは ……
グ
ワ
ン

亀田郷の始まり（原始時代）
―新潟平野と亀田郷の誕生―

石器時代＝一万年以上も前、人間が石で作った道具を使っていた時代。



お父さん見てこれ!!
どうしたお母さん
これは貝の化石だね
どうしてこんな山の中に?


はるか昔人間もいなかった三億年前は
日本列島は海の底だったってことだね
海底で火山がふき出したり
もりあがったり沈んだりして日本ができたんだ

そして長い時間をかけて今のような山や平地ができたのさ

昔はここも海だったんだね

それで貝の化石があるんだ

陸地ができたころは日本列島はアジア大陸と地続きで、大陸からナウマン象やオオツノジカが渡って来た

アジア大陸

日本海

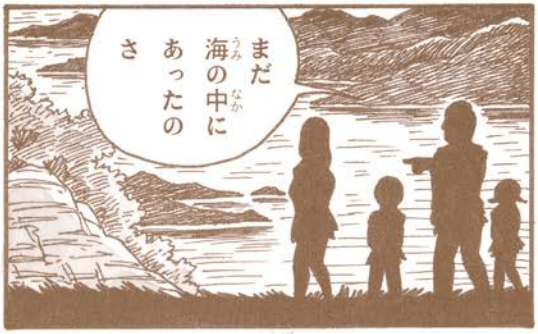
日本

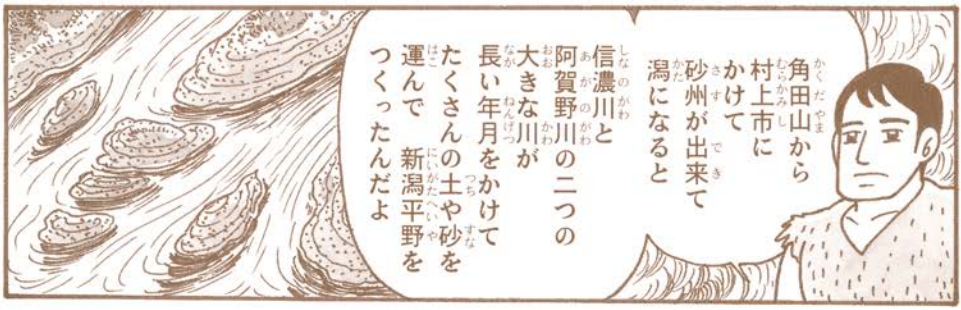
ナウマン象

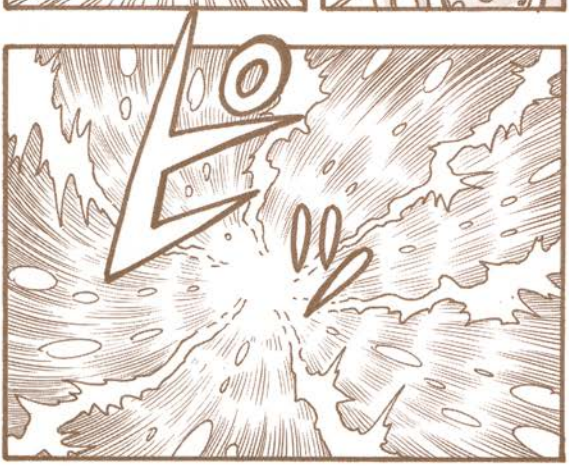
オオツノジカ

新潟県では中魚沼郡津南町の神山遺跡の中からナイフ型の石器がたくさん出てきているよ
三万年前にはもう人間が住んでいたことが分かったのさ
このころを石器時代と言ってそのころの人たちは
石器を使って魚をとったり狩りをしたりして生活していたんだ

砂州＝水の流れや風によって運ばれてきた土や砂でできた土地。







縄文時代（村ができる―狩、漁のくらし）

縄目の きれいな 模様のついた 土器を 縄 文土器と いってね これで 食べ物を 煮炊きしたり
木の実を たくわえたり したんだ

縄 文時代は 一万二千年前 ごろから 二千年前くらい
亀田郷に 人が住んで いたのは 縄 文前期の 約六千年前 ごろだと いわれている
どうして 分かるの ?

亀田町の 城 山遺跡や 新潟市の 笹山前遺跡 からは 縄 文時代の 土器が多く 出土している んだ

ここはたぶん 城 山遺跡の あった場所 だよ
よく 見てごらん

竪穴式住居＝地面を五〇センチ前後浅く掘り、その上に屋根をかけた家。

このあたりは水はけの悪い低くてじめじめした土地だが

住居のあるところは一段と高い砂丘になっているだろう

砂丘だから日当たりもいいよ

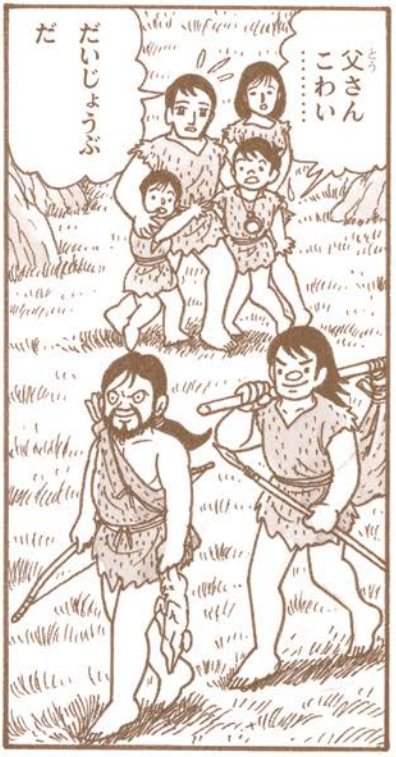
それに村の近くに水もわき出しているよ

おいしい！

見晴しのいい南側の場所に竪穴式の住居をつくったんだ……

ガサッ
わあっ!!

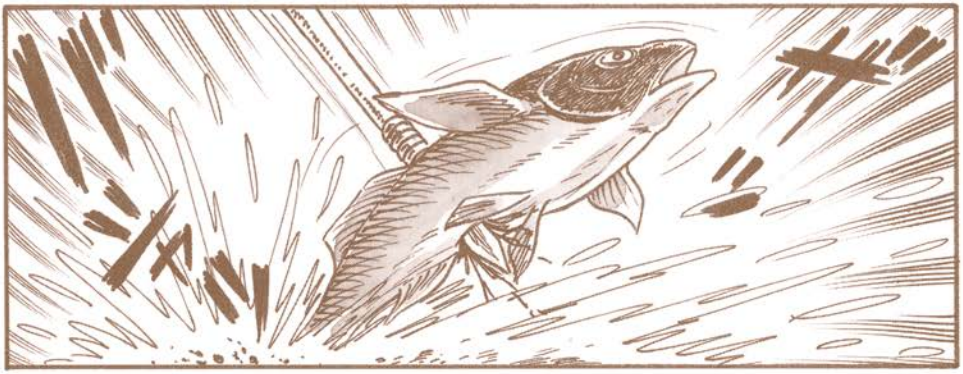
きょうは大きな獲物がとれたぞ
おまえたちにも分けてやるついてこい


父さんこわい……
だいじょうぶだ

わたしたちのことを仲間だと思っているんだ……

いっしょに行って縄文時代の生活ぶりを見てみよう
うん！わくわくしてきたよ!!

縄文人は
ああして
力を合わせて
狩りを
したり



魚や
貝をとり

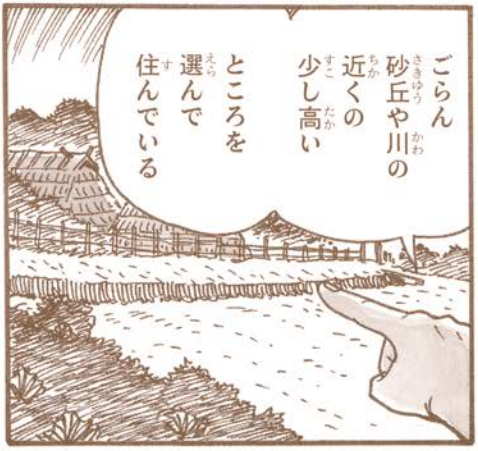
ドングリや
トチの実を
集めて

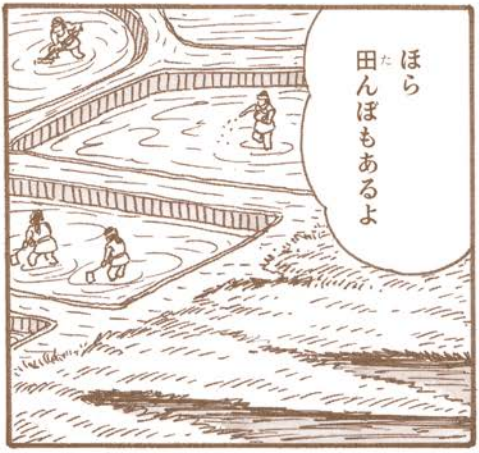
この小さな村でくらしていたんだよ
まだお米はなかったの？
うん
イネの文化が大陸から日本に入ってきたのは紀元前三〇〇年ごろなんだ
米は中国から伝わりあっというまに日本に広がった
米
アジア大陸
米を作り織物も作るようになったのが弥生時代だ
早く弥生時代に行こう

弥生時代（農耕のはじまり）

見て
お父さん
お母さん
ずいぶん
大きな村だ
ね!!

どうやらうまく
弥生時代の
亀田郷に来た
みたいだね





脱穀＝こく物の粒を穂から取りのぞくこと。

このころには
ものを
たくわえたり
煮炊きする
土器も
じょうぶで
うすくなり

色も
赤味がかって
きたんだ

（弥生式土器）

イネを
つくるには
共同作業が
必要だった
から

この田に近い
土地に住み
村を作ったんだ
ね

亀田郷の
人々の家は
竪穴式住居と
いって
南側に
入口を作って

北側には
カマドを
置いていた
ようだね

一辺が
四・五メートルほど
（教室の半分ぐらい）の
家の中に
四人から七人くらいの
家族が住み

すわったり
寝たりする
場所には
板やワラ・草などを
敷きつめていた

高床式建物＝地上より床を高くした建物。

大和朝廷と亀田郷

―権力者の出現と古墳づくり、越後の国造り―

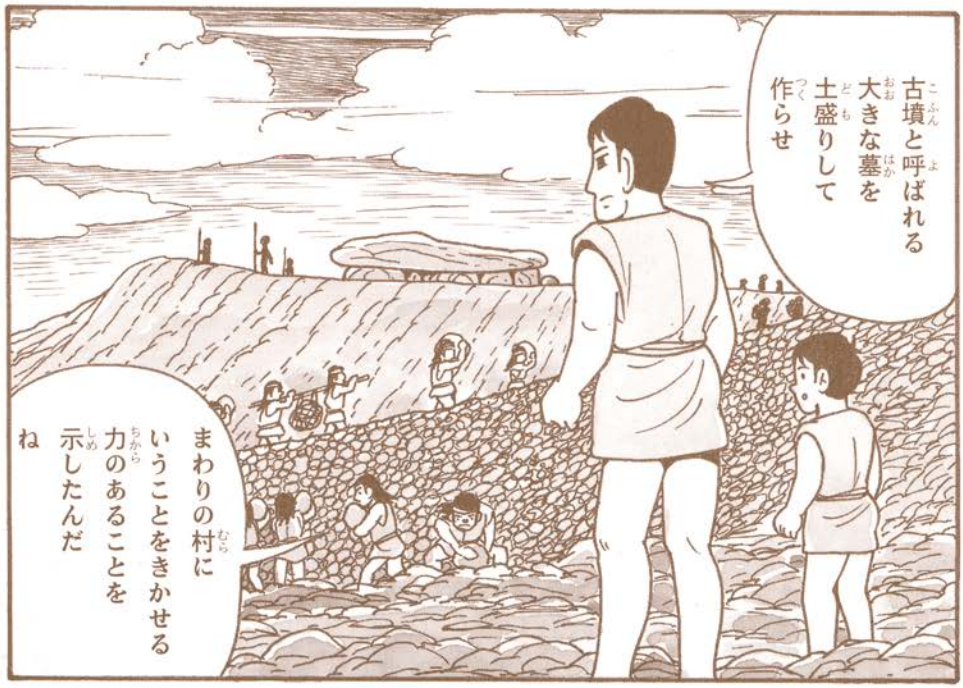
豪族＝地方で大きな富や力を持つ一族。

大和朝廷＝今の奈良や京都地方にあった日本初の統一政権。

亀田郷のあたりはどうだったの？

米作りは大勢の人が集まって行う作業だから
人を指図するかしらがどこの村にもいて大きな力を持っていた

その中でも大和朝廷の支配下にあった豪族は


古墳と呼ばれる大きな墓を土盛りして作らせ
まわりの村にいうことをきかせる力のあることを示したんだね

こらっ!!
やすんでいないで働け!!
はい
ひぇ〜っ
重い
……

ここは黒埼町にある緒立八幡神社の古墳だよ
直径三〇メートルもあるふき石をのせた大きなお墓だよ

亀田郷をはじめ信濃川阿賀野川のあたりの村をしたがえた王（豪族）の墓だったと言われている

まいったまいった きつい 仕事だったね……

それにしても

大和朝廷の力は強かったんだね お父さん

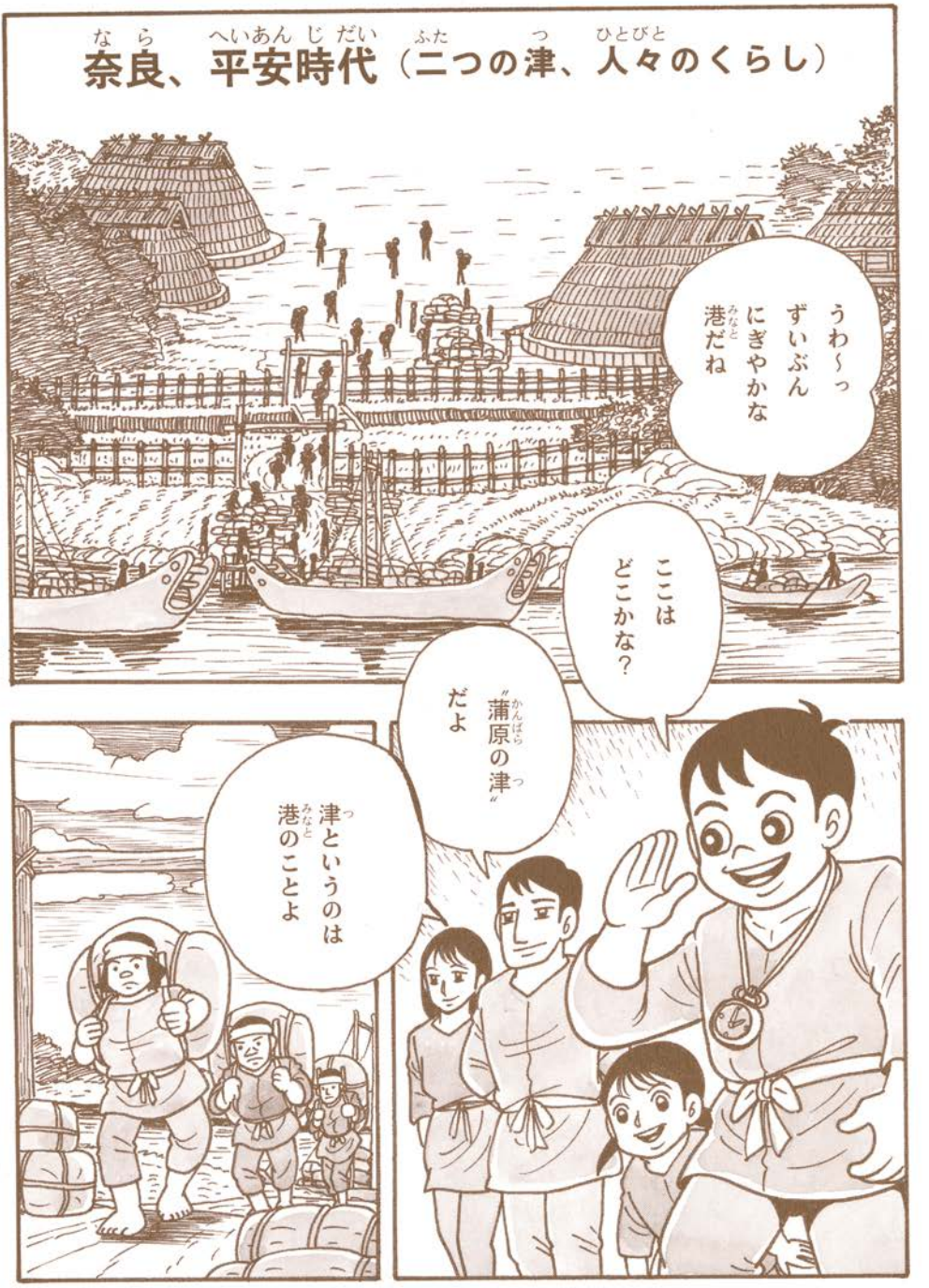
それでも まだ東北地方には 蝦夷と呼ばれる 人々が大和朝廷に 反対して 戦っていたよ

そこで 大和朝廷は 六四七年に

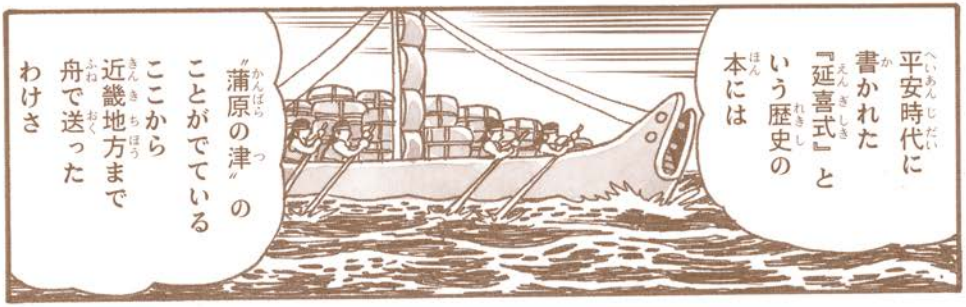
越の国（新潟）に "渟足柵" を はじめいくつかの とりでを つくった

国守＝朝廷から地方へつかわした役人の長。　木簡＝遺跡から出た、文字などを木の札に書いたもの。

奈良、平安時代（二つの津、人々のくらし）



大和朝廷の力が強くなると
各地方から税として米や産物を都へ送らせた
よし米と布だな
租・庸・調という税があったんだ
租というのは収穫した米の税
収穫のおよそ三%をおさめるのよ
庸は工事などの仕事に出ること仕事に出られない人は布や米を納めたの
調は男子だけだけど地域の特産物を納めたのね
この辺から都へ送るときには
舟を利用したんだね


平安時代に書かれた『延喜式』という歴史の本には
〝蒲原の津〟のことがでているここから近畿地方まで舟で送ったわけさ

蒲原の津はどのあたりなの？

もうひとつ 今の川口ではなく昔の阿賀野川の川口付近にも〝沼垂の津〟という港があってこちらもにぎわったそうだ

信濃川の川口で現在の万代島あたりだと言われている

この二つの港から産物が都に運ばれたサケも特産品として送られていたことが分かっているんだよ

一九九一年(平成三)に新潟市の的場遺跡から倉庫と見られる大きな建物の跡が発見され

漁具をはじめたくさんの道具や木簡が出て来て役人のいた大きな漁業基地だったと言われているんだ

稲作は
もちろん
だが
このように
畑では
ダイズや
アズキ
ソバ・アワ
オオムギ・
コムギ
それに
野菜も
作っていた
コムギ
アズキ
ソバ
野菜
ダイズ
都では
ふつうの
家に住んで
いたが
亀田郷
あたりでは
まだ竪穴式の
住居と
掘立柱の
住居が一緒に
あった

カン
カン

あれっ？
鉄を
たたいている
亀田町の
〝中の山遺跡〟
からは
鉄を作った
跡が発掘されているんだ
もう鉄を作る人が
出てきたんだね

お父さん
あれを
見て
何を
しているのかな
あの人たち

海水を
にているんだ
塩を
作ってるんだね

ここでは
布を
おっているわ
ハン
ハン

こうして都へおさめていたんだ
新潟市の小丸山遺跡からは糸巻きの外枠が発見されている
また「日本書紀」には越の国（新潟）より燃える水と土を都へ送ったと書いてある
いまの石油のことだろうね
この時代亀田郷では稲作や畑作の他に
サケ漁を中心にした漁業もさかんだったんだ

当時は税としてこの地方の特産物サケを
おさめなければならずサケ漁は特に大切な仕事だった
だからたくさんの昔話も伝わっているのよ
知ってるよ大助小助伝説でしょう？
むかし大川の主といわれた大きなサケがいたんだと

王瀬という長者が
魚をとってはいけない日に
いいか今日こそ大きなサケをつかまえてこい
長者さま今日はやめたほうがいいそんなことしたらたたりがあるで
いいから行ってつかまえてこい!!
ふしぎなことに漁師がいくら網を入れても一匹もつかまえられなかった

長者が
ヤケ酒を
飲んでいると

一人のおばあさんが
たずねてきて
家の人にこう言った

フッフッフッ

きょうは
ごくろうさんでした
と
長者に言っとくれ

そう言ったまま
すうっと消えて
しまった

スーッ

その日から長者の
家は不幸が続いて
やがてびんぼうになって
しまった

この伝説で
毎年上がってくるサケを
川口の漁師の
人たちが
とても大切に
してきたことが
分かるね

鎌倉幕府＝一一九二年〜一三三三年まで、鎌倉を中心としてあった最初の武士政権。

武士の世の亀田郷

―南北朝の蒲原、上杉謙信・景勝の越後統一―

鎌倉幕府は
頼朝の死後
北条氏が
権力をにぎるが

やがて
鎌倉幕府は
たおされ

武士は
二つの勢力に
別れて戦いを
始めた

天皇も
南朝と北朝に別れて

日本各地で
戦争がおこった

南北朝＝一三三六年、後醍醐天皇が吉野に南朝を開き、京都の光明天皇の北朝と、六〇年間にわたって対立した。

金津保＝金津は地名、保は地方の国司が私領として支配していた土地のこと。

奥山荘＝現在の中条町の付近にあった荘園。荘園を預かっていたのは地方の武士で、羽黒義成は奥山の荘の支配者だった。

うわ～っ
ここも
すごい戦いだ
どうやら
戦国時代に
ついたようだ
ぞ
上杉軍の
旗だ！
毘

越後の統一をめざした上杉謙信
わぁぁ～
だが領内ではたびたび反乱がくりかえされた
謙信の子の上杉景勝も領内をおさめるのに苦労したが
ようやく新発田重家を破り蒲原地方を手に入れ
やがて佐渡も平定し越後を統一するが
上杉景勝
天下は豊臣秀吉のものになる

新発田藩の新田開発

一五九八年（慶長三）
豊臣秀吉は
越後を統一した
上杉景勝を
会津に移し

新発田藩には
溝口秀勝が
藩主として
入った

溝口秀勝

亀田郷は
周囲を水に
囲まれて
いたので

アシ・ガツボ＝水辺に生える背の高い草。

村の人たちは水につかって米つくりをしたんだ
お父さんあの人は？
新発田藩のとの様溝口秀勝だ
殿 新発田藩は六万石といっても作物のできない田畑が半分以上もありこれでは実際には二万石にもなりません
だからといって嘆いてばかりはおられん

何としてもこの蒲原に新田(新しい田)をつくるのじゃ

この荒地にどうやって田をつくればよろしいのでございますか?

ワシが水田を作って見せよう!!

われわれ武士が農民の見本となるのじゃ
お前たちにも土地を与えるから村人と力を合わせて田をつくれ
ははっ!!

一六〇三年（慶長八）
徳川家康は
江戸に幕府を
開き、天下を
統一した。

越後の
新発田藩は、
大名として
幕府に
従った。

藩主の
溝口秀勝は
自分から進んで
田をつくり、
けらいの武士も
新田を広げて
いった。

年貢＝年ごとに差し出す農民の税。米で払った。

でもね新田づくりはやさしい仕事ではなかったんだよ
この田んぼを見てごらん
だめだどうにもならん水が流れこんでくる……
三年間年貢を出さなくたっていいといったって……田うえもできないこれじゃ〝どうしよう新田〟だ……
どうだねおまえさんのくっているボタ餅とこの田んぼを取りかえないか？
えっ!?
わずかな食べものと田んぼと取りかえたという話が出るほど土地が悪るかった

一七世紀ころの横越島絵図には多くの新田の中に田をつくった人の名前のついた新田がある

寛永16年「横越島絵図」より

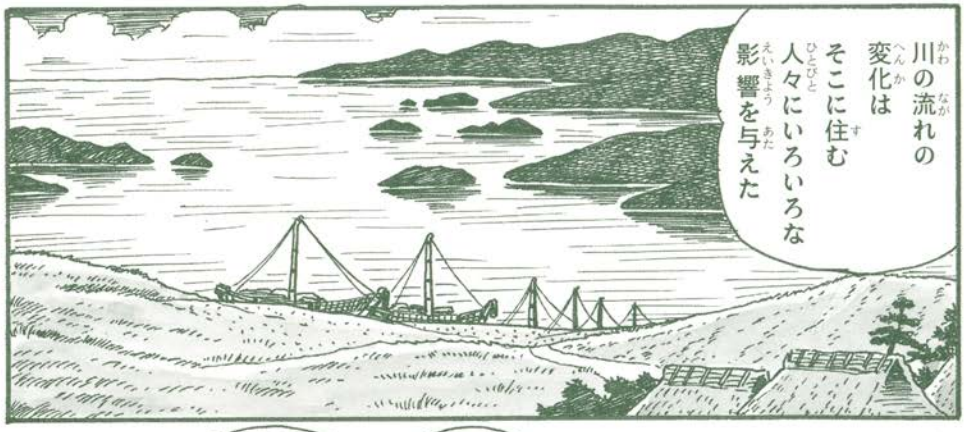
秀勝が新発田に移ってから八〇年の間に新田がふえ五〇ほどの村が出来た

現在の村や町はだいたいこの時代に作られたものだそうだ

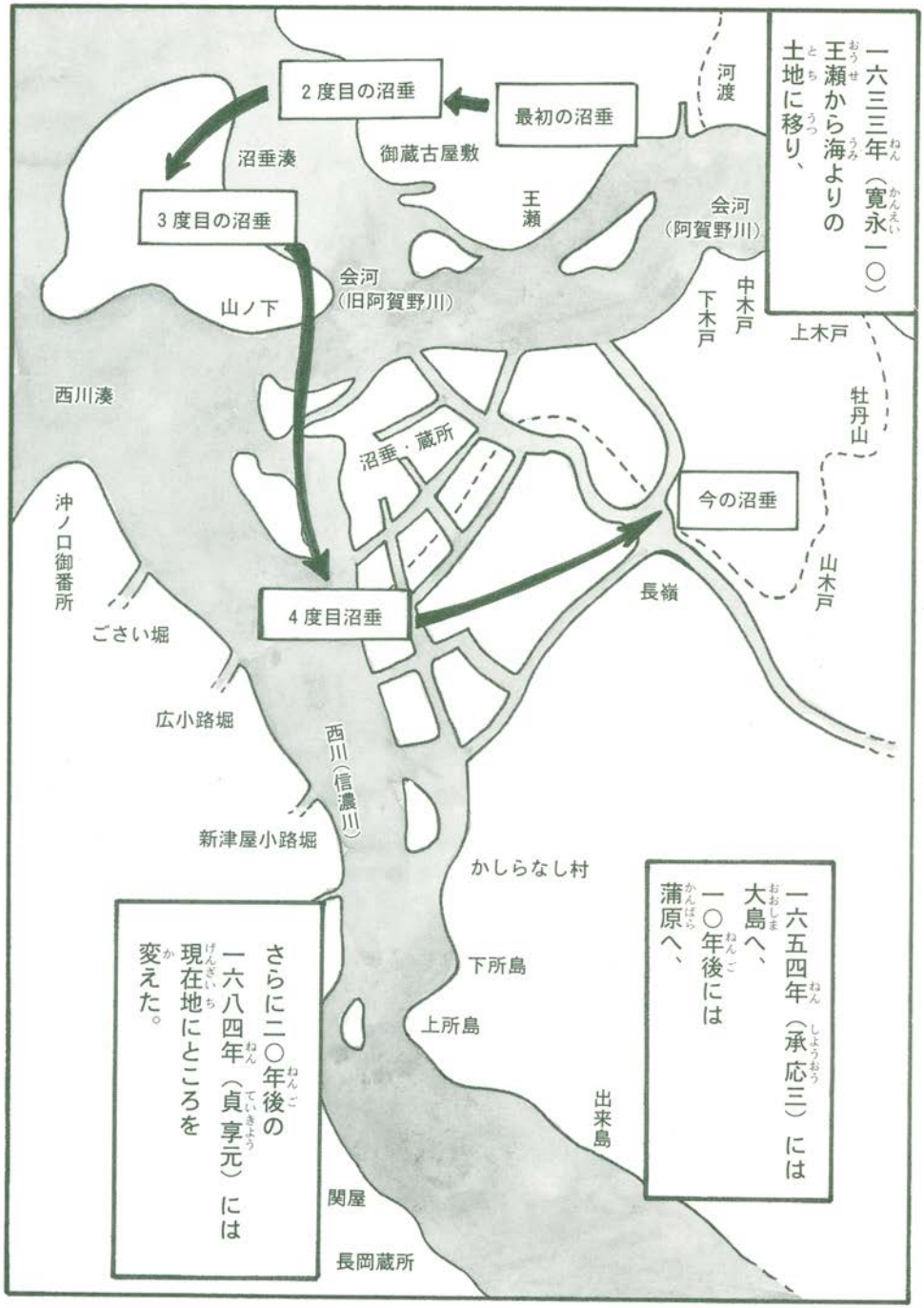
亀田郷では大変な苦労をして今の町ができてきたんだね

信濃川、阿賀野川の合流と四回も移った沼垂町

河口が
一つになった
時代があり


川の流れの
変化は
そこに住む
人々にいろいろな
影響を与えた

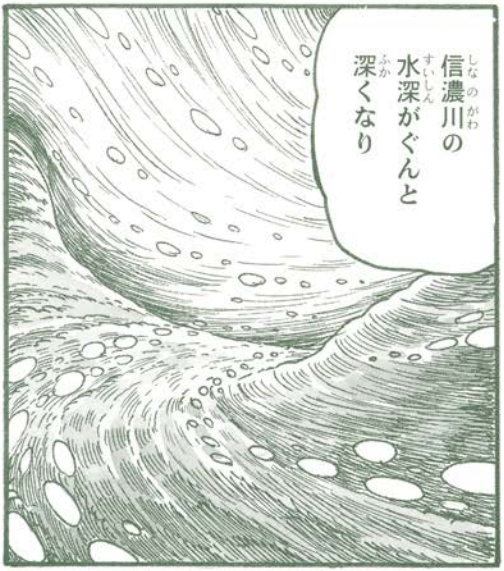
川の近くの
砂地にあった
沼垂町は
何度も場所が
変わったんだ
はじめ　阿賀野川の河口の
王瀬で港町として
栄えた沼垂町は


一六三三年（寛永一〇）
王瀬から海よりの
土地に移り、
河渡
2度目の沼垂
最初の沼垂
沼垂湊
御蔵古屋敷
王瀬
会河
（阿賀野川）
3度目の沼垂
会河
（旧阿賀野川）
山ノ下
中木戸
下木戸
上木戸
西川湊
牡丹山
沼垂・蔵所
今の沼垂
沖ノ口御番所
山木戸
長嶺
4度目沼垂
ごさい堀
広小路堀
西川（信濃川）
新津屋小路堀
かしらなし村
一六五四年（承応三）には
大島へ、
一〇年後には
蒲原へ、
さらに二〇年後の
一六八四年（貞享元）には
現在地にところを
変えた。
下所島
上所島
出来島
関屋
長岡蔵所

四回も
場所が
変わったんだ
……

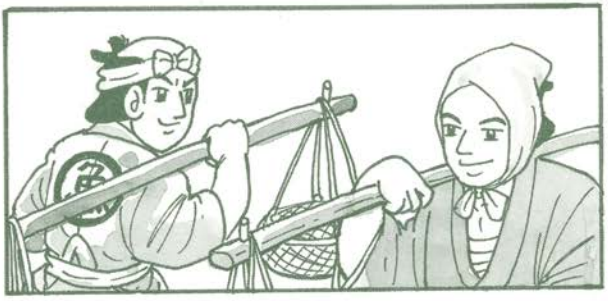
川の流れで
土地がけずられたり
川幅も変わったり
したからね

信濃川と
阿賀野川が
合流すると


信濃川の
水深がぐんと
深くなり

今まで
栄えた
沼垂湊(港)に
変わって

新潟湊（港）が
さかんに
なった



一六九七年（元禄一〇）には
全国四〇カ国から、
三千五〇〇隻もの船が
集まってきたといわれている。
米を送り出すために
集まったこれらの船で、
大変なにぎわいを
見せた。

亀田町の誕生と六斎市

亀田町はかつて中谷内新田と呼ばれ
谷内とはこのようにいつもじめじめした沼地で
水たまりの多い土地のことをいったんだ

中谷内新田は
一六五一年（慶長四）
関ケ原の戦いで
敗れて、
新潟にやって来た
村木七右衛門に
よってつくられた。

一六九三年（元禄六）
名主善右衛門の
家。
名主様
この中谷内新田は
亀田から
信濃川につながる
いわば排水路と
もいえる
栗ノ木川を
利用して
新潟と
まわりの村や
市場を

六斎市＝月六回、三と九のつく日に開かれた定期市、三・九の市とも呼ばれた。

そのほうたちのかねてより願いのあった町作りの許可がおりたぞ……

ははっ！

それと三と九のつく日に市を開く六斎市も

許可を与える!!

かつての小さな村はこうして

新しい町並の亀田町として生まれ変わったんだね

新発田藩の米蔵は沼垂町にあったから

亀田郷のお米やいろいろな品物を舟に乗せ栗ノ木川を通って沼垂町の蔵に納められた

さらに新潟湊（港）は北日本で一番の港だったから関西や北海道にも特産物を送っていたし

逆に全国から米・雑穀・木綿類・木材・お茶などが新潟港へ運ばれてきた

大きな港があったから

日本中のものが集まったのね

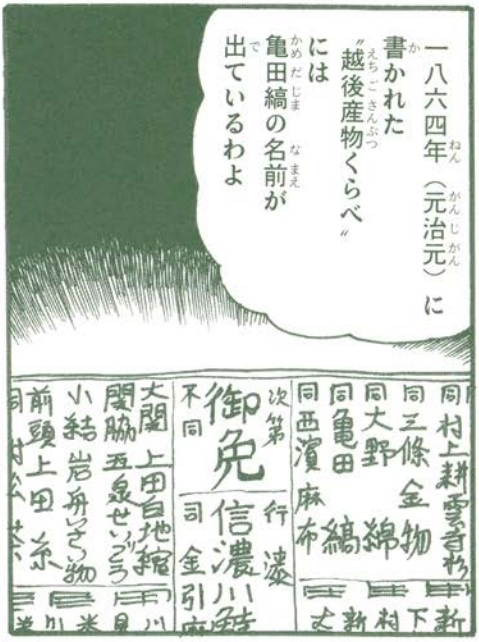
そのころ亀田町には大阪・四国から運ばれた染物の原料の〝藍〟を使って

〝亀田縞〟という木綿の織物を作っていたのよ

これは全国的にも有名で

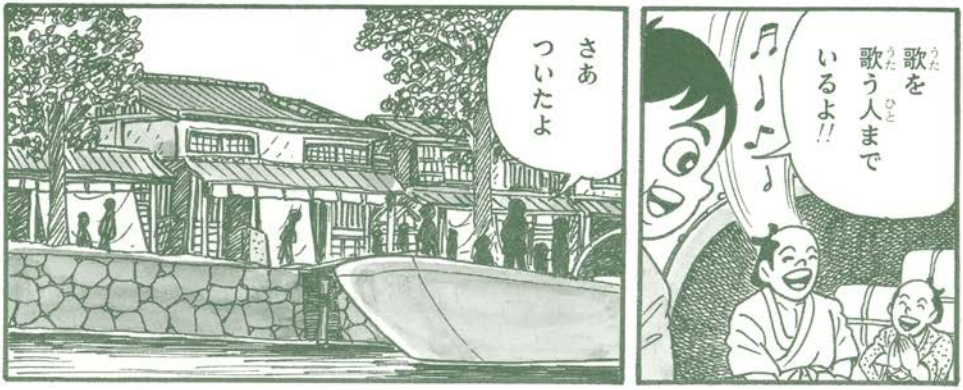
農家の人が仕事のあいまにこしらえていたんですって

一八六四年（元治元）に書かれた〝越後産物くらべ〟には亀田縞の名前が出ているわよ



江戸時代の栗ノ木川は川幅が四五メートルから七〇メートルもあって

農民の土取舟やコヤシ舟
材木を組んだイカダが行き来し
この舟は形が魚のアンコウに似ているので
アンコ舟とよばれ貨物を積み込んだり人を乗せたりして
新潟〜亀田間一二キロの航路を上り下りしてにぎわったんだ


歌を歌う人までいるよ!!
♪〜♪〜
さあついたよ

この栗ノ木川の船着場は現在の亀田町東船場なんだ

エーヤーラーセエ
たとえこの場で
ヤーレイヤトコセー
お父さんお祭りだよ

たとえこの場で夜が明けよとも
町のお諏訪さま参らにゃならぬ
ヨーイトナ〜〜〜
ソーランヤーイ〜〜

この歌
岩万燈祭りの
歌じゃない!?
そうだね
船頭の多い
東 船場や
西船場の人たちが
神社へ
岩万燈を
寄付して
水の事故が
ないよう願った
のが始まりだと
いわれている

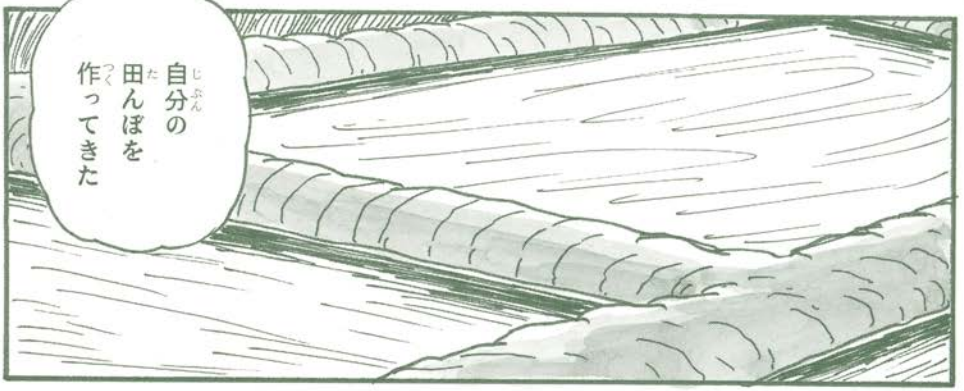
けんかまつりとも
よばれ
大きな張り子を
ぶつけあう
とてもいさましい
ものだ
舟の行き来が
さかんだったことや
亀田町の
栄えていたことが
この祭りでよく
分かるね

またこの
六体地蔵は
水の事故で
なくなった人を
祭ったもので
現在の
亀田町
東 船場に
いまも残って
いるよ

亀田郷の農民たちは米を作るために
水との闘いを続けた

水に浸かって鎌でアシを切り

潟や堀の底から土を掘り上げては舟で運び


自分の田んぼを作ってきた

水との闘い

―島とよばれた亀田郷、村人のくらし―

こうして
アシの上に

土をのせた
だけの田んぼだった
から

大雨になると
動きだし
ほかの田んぼへ
流れて行くこともあった

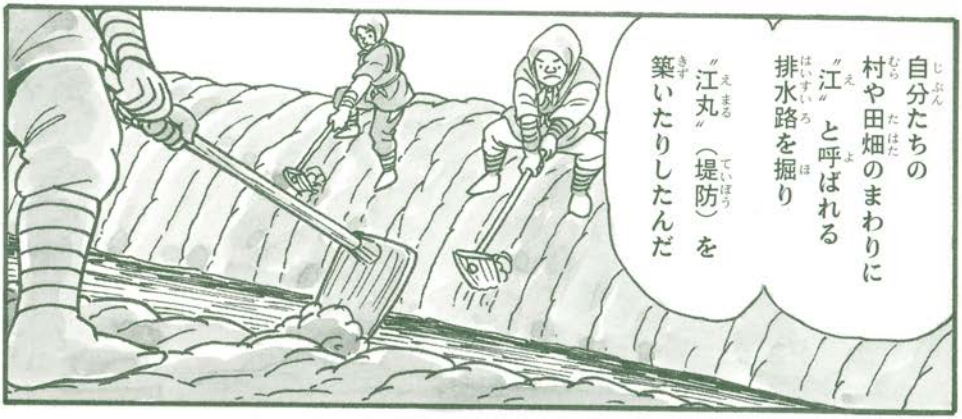
ええ～っ!?

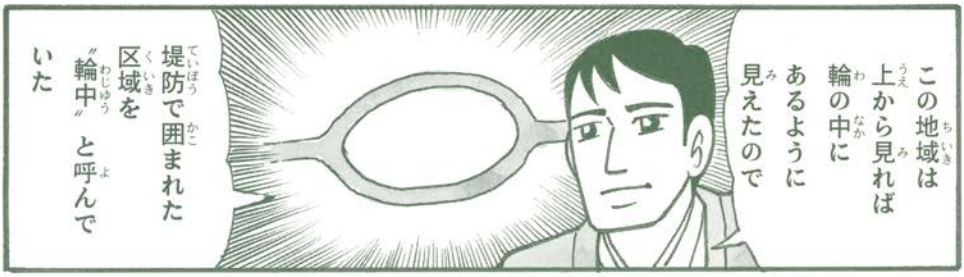
うそだろう
……

だから
田んぼに
杭を打って
大きな木に
しばりつけた
田が
小張ノ木に
あり
浮田と呼ばれ
たんだ

亀田郷では
大雨のとき
まわりを
囲む川から
押し寄せる
水を防いだり

田の中の水を
外へ出すために


自分たちの
村や田畑のまわりに
〝江〟と呼ばれる
排水路を掘り
〝江丸〟（堤防）を
築いたりしたんだ


この地域は上から見れば輪の中にあるように見えたので
堤防で囲まれた区域を〝輪中〟と呼んでいた

大囲・小囲という堤の名前も残っているのよ

ほんとうに大変な場所だったんだね……

こうして苦労して収穫したお米を作った人が自分ではほとんど食べられなかったんだ
どうして？

お米を年貢として出さなければならなかったのよ

このおふれ書きを見てごらん
定

これは一七〇五年（宝永二）新発田藩から出された命令だ

なんて書いてあるのお父さん

百姓に似合わないぜいたくはするな家もそまつなものにしなさい

食事は、ふだんの朝晩はおカユや雑炊。

農作業の忙しい時期はカテメシ。（クズ米や大根の葉を細かく切っていっしょに炊いたご飯）

酒を売ってはいけない

酒

衣類は色物に染めないこと。

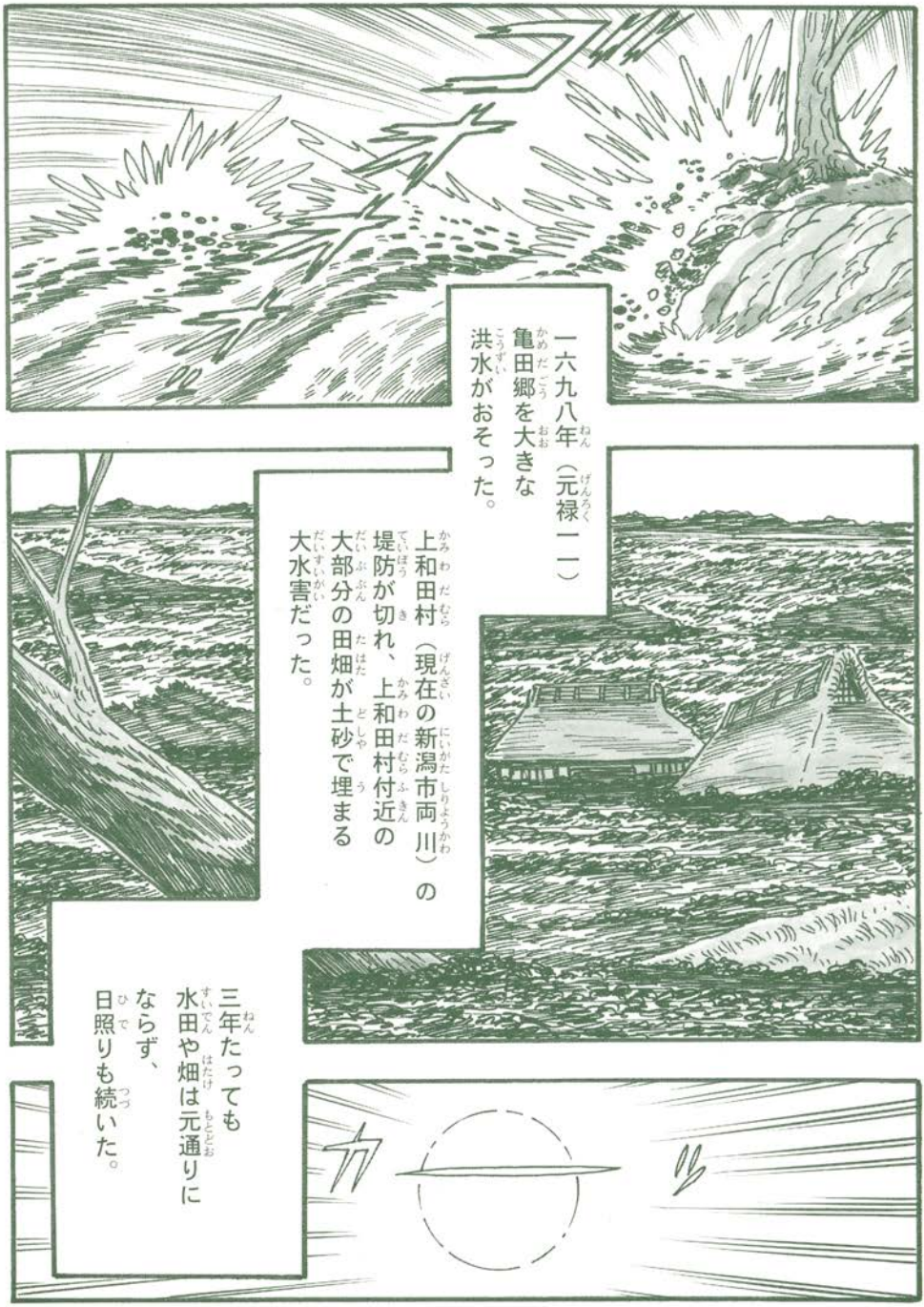
雨が降ってもみの笠だけでカッパやカサは禁止する。

かわいそうだよ農民は……
そうよね……

それでも農民には米をたくさんつくることが一番の願いごとだったんだ

七月一日蒲原神社で米のでき方を占ってもらう蒲原祭りは村人の楽しみだった
よいうらないが出るように亀田郷の人たちはちまきや笹団子をつくって蒲原神社へ出かけた

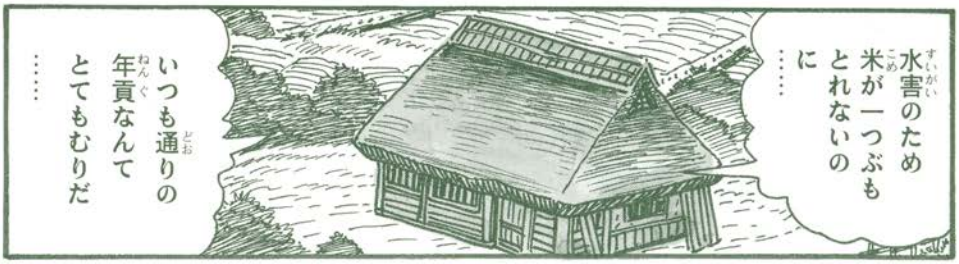
栗ノ木川は舟をつける場所がないくらいににぎわったそうだよ
みんな楽しそうそうだよこれぐらいの楽しみがないとね


一六九八年（元禄一一）
亀田郷を大きな
洪水がおそった。
上和田村（現在の新潟市両川）の
堤防が切れ、上和田村付近の
大部分の田畑が土砂で埋まる
大水害だった。
三年たっても
水田や畑は元通りに
ならず、
日照りも続いた。

怒る農民

一六八六年（貞享三）～一九一七年（大正六）までの亀田郷の堤防が切れたところと回数

信濃川
下所島①
出来島①
綱川原①
鳥屋野①
大島②
曽川①
天野③
和田④
割野③
二本木②
木津⑩
沢海⑨
横越①
小杉①
江口③
海老ケ瀬②
津島屋①
阿賀野川


水害のため米が一つぶもとれないのに……
いつも通りの年貢なんてとてもむりだ……

こうなったら年貢のとりやめをお願いしよう
カサ連判状を庄屋に突き付けよう

元禄一一年の洪水から七年後の一七〇五年(宝永二)八月
上和田・庚・下和田三カ村の農民たちが庄屋のやりかたに怒っているんだ

カサ連判状というのはだれが最初に書いたか分からないように三八人の名前をまるくして書いたものだよ

連判状の文面を読みあげるぞ
このままでは前年の凶作の時に借りた種籾などをかえすことも出来ないし年貢を納めることも出来ない……
よしそれでいいぞ!!

それでも庄屋はきびしく年貢を取りたてたために、翌、一七〇六年農民たちは庄屋をやめさせるよう代官所に訴えた。
庄屋渋右衛門その方へ農民からの訴えが出ておる

年貢の割り当てが不公平な上に
庄屋屋敷にかかる年貢まで農民たちから取り立てるとはけしからん!
……
……

さらに村の者と争いを起したこともゆるされん！

こうして牢屋に入れられ翌年には庄屋をやめさせられたんだ

今度は江戸時代の中頃に飛んでみよう

カチッ

うん

将軍徳川吉宗は全国的に新田を開発するよう命令した

新発田藩でも二五〇ヘクタールに及ぶ紫雲寺潟の干拓をきめたが、

それには、阿賀野川に通ずる支流をせき止めねばならなかった。

阿賀野川堀割
―新発田藩と新潟町の対立―

とんでもありません そんなことをすれば 港の水深が浅くなって

新潟の港は役に立たなくなってしまいます

新しい河口にも港が出来てしまうぞ

ガヤガヤ

新潟町の人々は反対した。

お父さん大変なさわぎだね

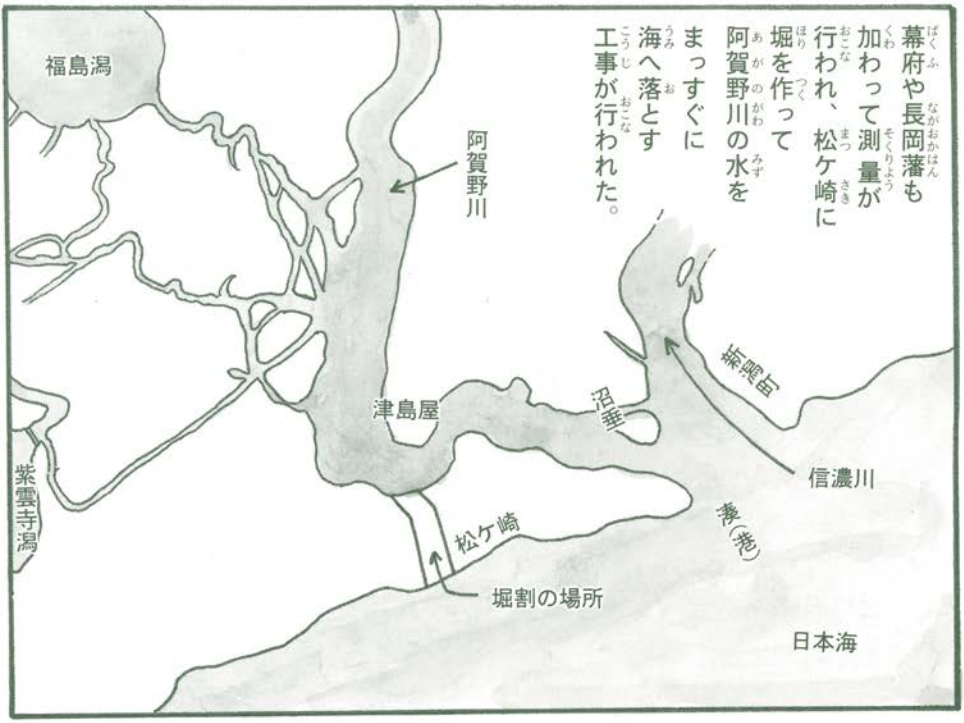
いくらお上の命令でも川の水を直接海に流すなんてとんでもない！

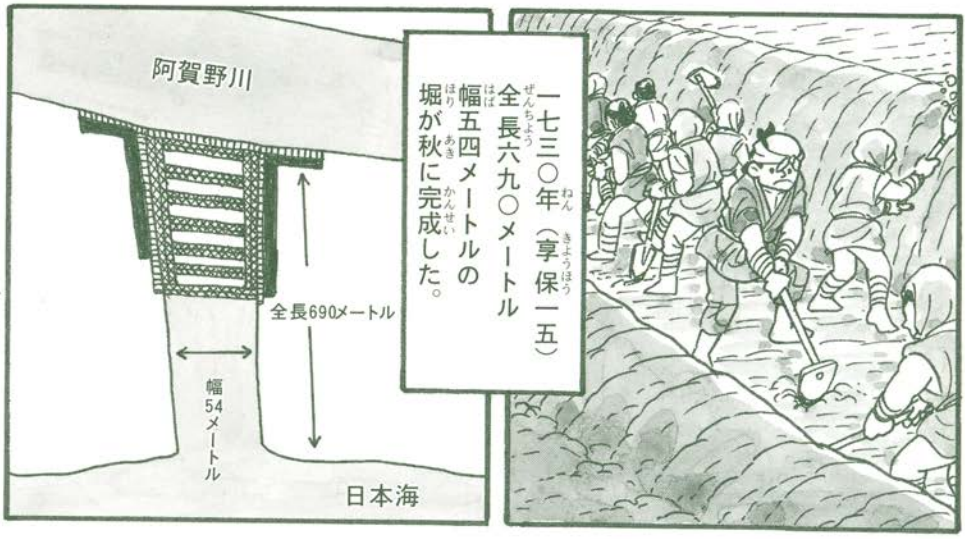
そうだ絶対反対だ!!

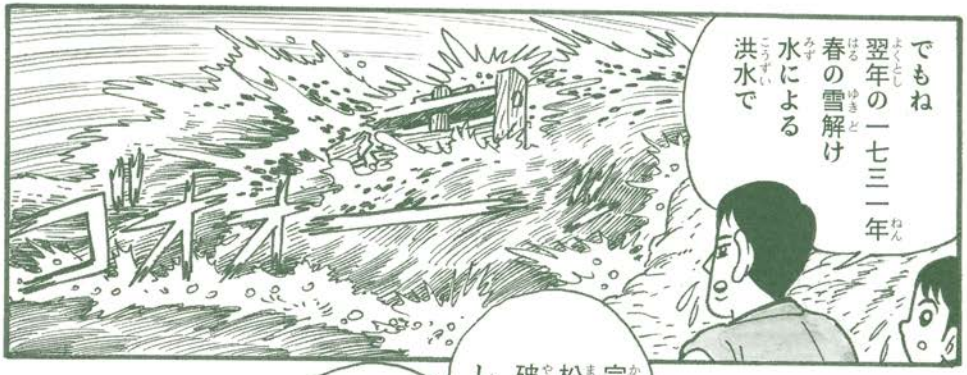
まあ待てよく聞いてくれみんな

せきを作って阿賀野川の水が増えたときにいつもの水の高さより増えた分だけ水を流すんだ

幕府や長岡藩も
加わって測量が
行われ、松ケ崎に
堀を作って
阿賀野川の水を
まっすぐに
海へ落とす
工事が行われた。



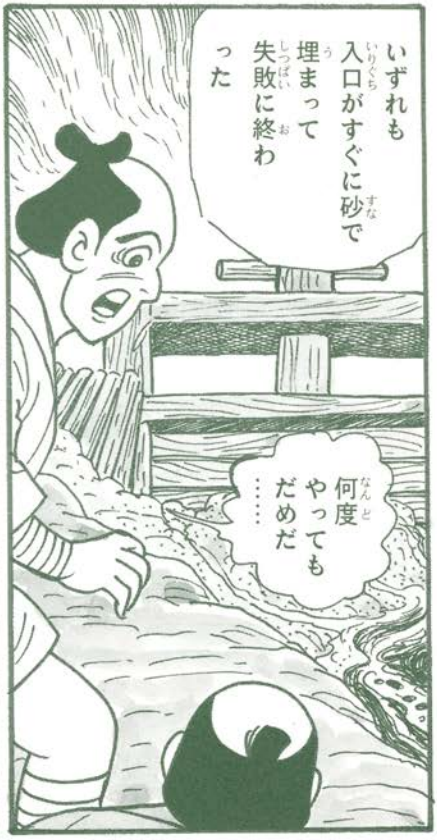

一七三〇年（享保一五）
全長六九〇メートル
幅五四メートルの
堀が秋に完成した。
阿賀野川
全長690メートル
幅54メートル
日本海


でもね
翌年の一七三一年
春の雪解け
水による
洪水で

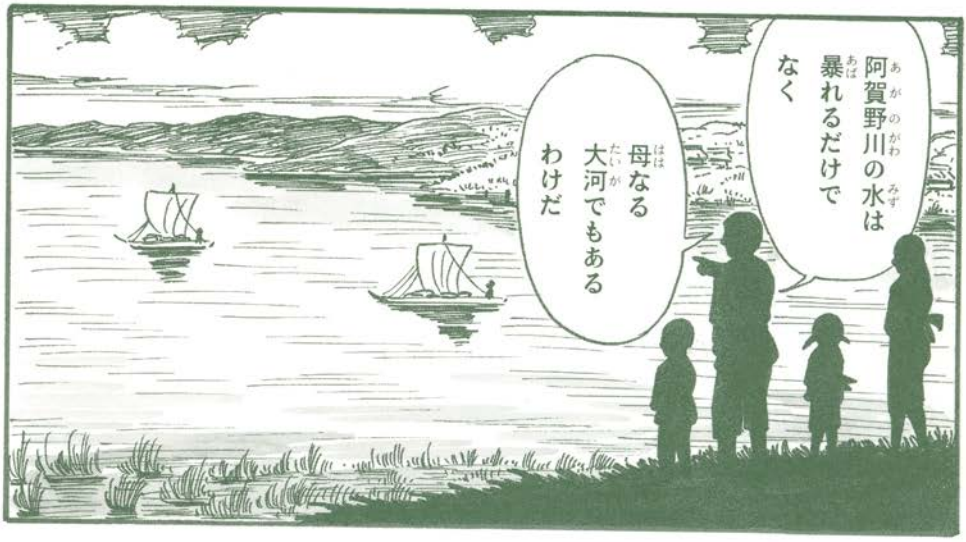
完成したばかりの
松ケ崎掘割は
破れて
しまい
阿賀野川の
本流となってしまった
これが現在の
阿賀野川なんだ
水の力は
すごい
せっかく
つくったのにね
……

そのため
新発田藩は
小阿賀野川や

旧阿賀野川を
深く掘ったり
土手のかさ上げを
したが


いずれも
入口がすぐに砂で
埋まって
失敗に終わ
った
何度
やっても
だめだ
……

それから四〇年後に
ようやくもとの川のあとを
掘り直して
完成したのが
いまの通船川の
およその川筋なん
だよ
通船川
↓


阿賀野川の水は暴れるだけでなく
母なる大河でもあるわけだ

見てごらん船が通っている

たくさんの荷物を運ぶのには船が一番便利だ
そうか船の出入がさかんになれば

多くの人々も集まって来るわ

そうだねそうなると
まわりの町や村がにぎやかになり生活も豊になる

鳥屋野潟のがたがた追い

多くとり
すぎて
沈んだ舟も
あったり

サケをとって
一年のくらしが
たてられていた
者もいたりした
そうだよ

田や川に
氷が張ると
パリン
魚のいそうな
場所に穴を
あけて

ドボラ
こうやって
雪を詰め
込み

その雪を
かきだして
こうして
フナを取る
これが
ザイ掘り
漁法だ
へ～っ
おもしろい！

亀田郷の中で
有名なのは
この鳥屋野潟の
コイやフナを
とる
〝がたがた追い〟と
いう漁法だ
ほら
あそこで
やっているよ
トーン
トーン
コーン
コーン

初代新潟奉行
川村修就が
一八五二年（嘉永五）に
残した絵巻物
「蜑の手振り」に、
がたがた追いが
記してある。

開港場＝外国との貿易のために、港として定められた所。

外国船がやってくる

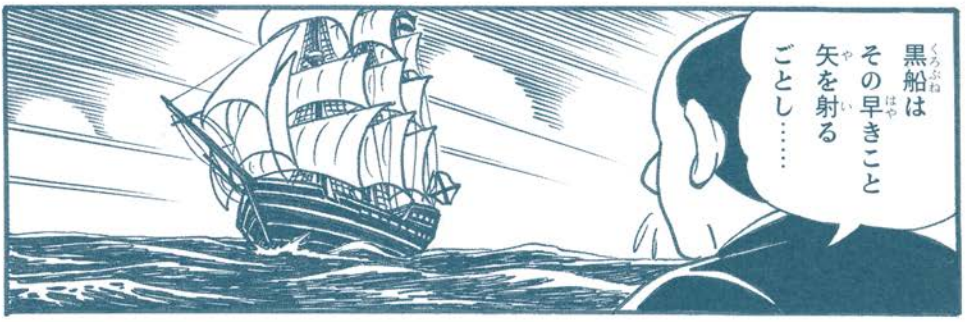
一八五九年（安政六）四月、新潟港の沖合に一隻の黒船（外国船）ロシアの軍かん〝ジキット号〟が姿を現した。

この前年一八五八年に日米修好通商条約が結ばれ

新潟港は日本海側でただ一つの開港場に指定されていたのでジキット号が港の水深などの調査におとずれたものだった

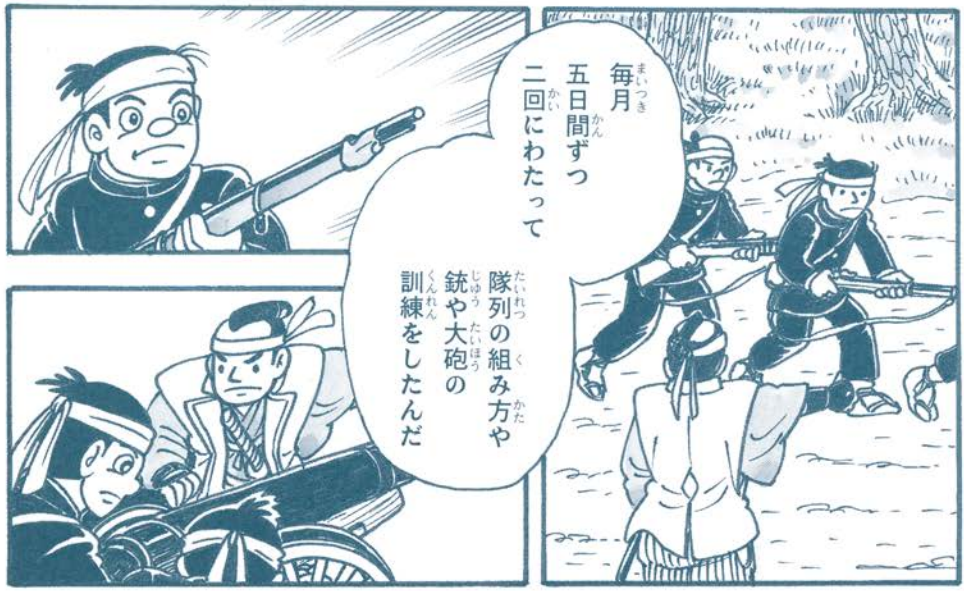
開国＝外国との交際を始めること。

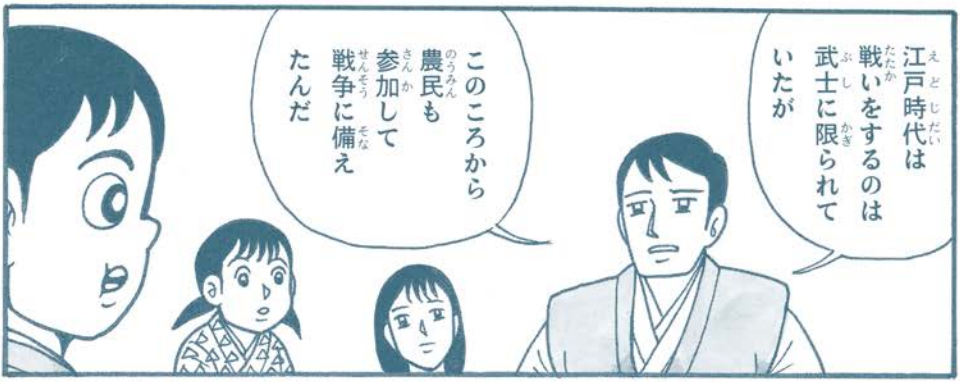
攘夷＝外国人を追い払って入国させないこと。



幕府は新潟の海岸を黒船から守るよう命令を下し
新発田藩でも軍備を強化したんだ
新発田藩は一八六四年（元治元）一〇月　領民を兵隊として取り立て

外国式の"銃隊組"をつくって訓練に当たった
蒲原横越組では一二歳から四五歳までの農民三三人が隊員になった


毎月五日間ずつ二回にわたって隊列の組み方や銃や大砲の訓練をしたんだ


江戸時代は戦いをするのは武士に限られていたが
このころから農民も参加して戦争に備えたんだ

一二歳っていえばまだぼくより二つ上だよ

一八六八年（慶応四）には銃隊組という名の〝農兵隊〟が戊辰戦争にも参加している

時代は急に変ったんだよ

ぼくたちの生まれた時代の平和って
いいもんだな〜

一八六八年一月鳥羽伏見の戦いが始まり

亀田郷の明治維新
—亀田郷の戊辰戦争—

奥羽越列藩同盟＝東北地方の二五藩と、越後六藩が新政府と戦うという約束を結んだ。

新発田藩は新政府軍の方につくことにする!!

よいなみなのもの!!

はは〜〜っ!!

新発田藩は、新政府に協力するというやくそくを交していた。となりの長岡藩は奥羽越軍についていたため、敵と味方に別れて戦うことになった。

一八六八年（明治元）七月二五日、新政府軍が新潟の太夫浜に上陸。

新潟港を守る米沢藩を攻撃すると、

新発田藩は新政府軍の指揮下に入った。

八月一日亀田町の大倉市十郎は新政府軍に加わり、約六〇〇人の農兵隊を組織し、二本木方面で会津軍と戦う。

八月二日、奥羽越列藩同盟軍は圧倒的に数の多い新政府軍に敗れた。

市十郎が指揮する農兵隊は、萩島に築いた敵陣の台場を破壊した。

亀田町には新政府軍が立ち寄り、

栗ノ木川をくだって新潟へ向った。

そのたびに農民は手伝いを命令され、

米や食べ物も出させられ、

舟場人足にかりだされたり橋を修理するなど、多くの負担を強いられた。

地租改正＝今までとの様が持っていた土地を、個人が持つことを認め、年貢も米で納めたものをお金で納めるように変えた。

地租改正の実施、地主王国の光と影

新政府はこれまでの年貢による税金の収入より税金をへらさない方針だったから。

全国いたるところで地租改正反対運動が起きた。

地租改正反対!!

亀田郷の地租改正は一八七五年(明治八)から始まったが

明治維新前の新発田藩は独特の土地制度だったから大変だったんだよ

それというのも亀田郷は荒地が多かったので一反歩(約一〇〇〇平方メートル)の面積は全国の基準より広かったんだね

全国の基準

一反歩の面積

亀田郷

荒地

一反歩の面積

水害が多く水田の平均収穫量は他の地域に比べて、ぐんと低かったから土地を多く農民に持たせたんだよ

他の地域

とれる米は同じ

亀田郷

払う税金は多い。

だから土地の広さで税金が決められるのはとてもこまったことなんだ

横越村の地主たちは新潟県の土地調査に強く反対したので

亀田郷の地租改正作業は

かなりもつれて一八七九年(明治一二)までかかるんだよ

一八八一年(明治一四)松方デフレと呼れるお金の流れをおさえる政策が行われると物価は大きく下がり、米の値段も下がって、税金を払えない農民が増えていった。

やっぱりこの村を出るのか……

ああどうしようもねえ……

庄屋さんからお金を借りて返せない……

オラの土地はなくなっちまったからなァ

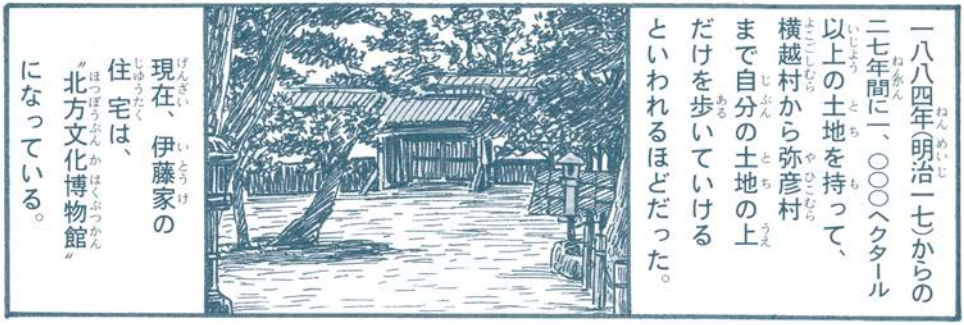
それじゃァ……さようなら

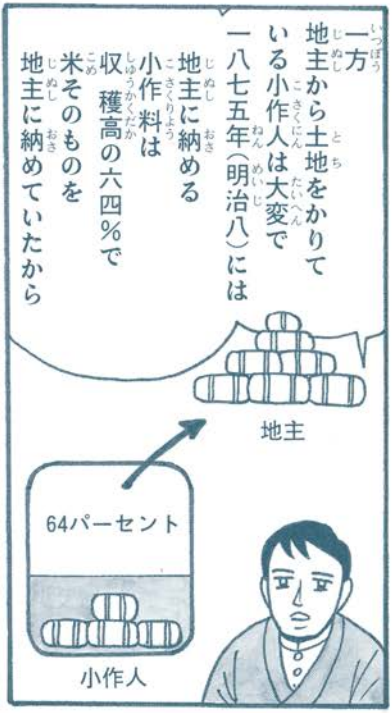
がんばれよ……

オラたち農民はくらしていけないこれではみんな小作人になってしまう……

松方デフレ＝大蔵省の長官で、この当時の大蔵卿・松方正義により、お金の流れをおさえる政策が行われたため、物が売なくなり不景気になった。

一八八〇年代になると土地をふやしていった大地主が続々現れたんだ
亀田郷でのトップは横越村沢海の伊藤家で


一八八四年(明治一七)からの二七年間に一、〇〇〇ヘクタール以上の土地を持って、横越村から弥彦村まで自分の土地の上だけを歩いていけるといわれるほどだった。
現在、伊藤家の住宅は、〝北方文化博物館〟になっている。


一方地主から土地をかりている小作人は大変で一八七五年(明治八)には地主に納める小作料は収穫高の六四%で米そのものを地主に納めていたから
地主
64パーセント
小作人

米の値段が上がれば地主がもうかり米の値段が下がっても地主は小作料を上げて損を少なくすることができる
米
上がる
下がる
小作料を上げる

水害の多かった亀田郷では小作料は地主の思うままに決められていたんだ
……
ふ〜っ

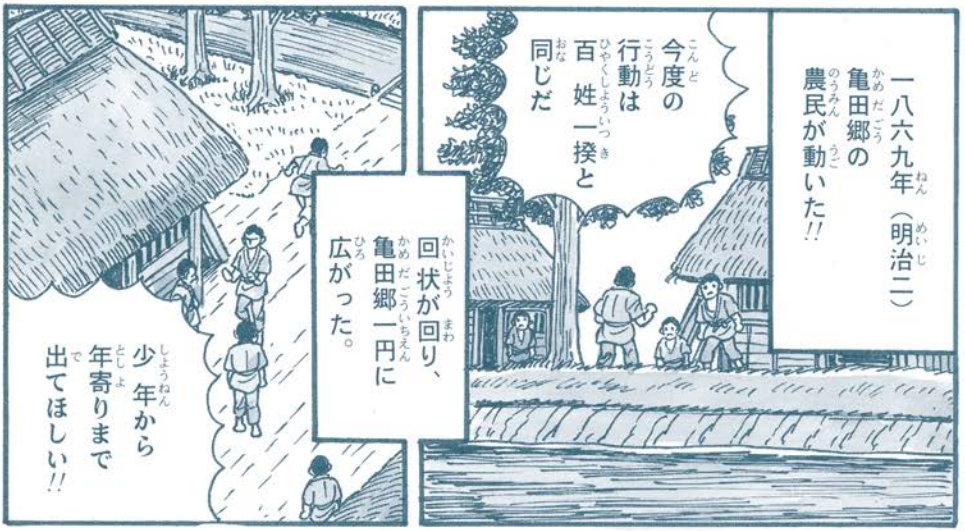
水害を防ぐ努力と人々の協力

—関屋堀割騒動—

嘆願書＝お願いの文書。

しかし みんなでおしかけ ればばつを受けるに 決まってる
では 嘆願書を 新発田藩に 出そうじゃないか
それはまずい 新政府に対して 以前から 計画のある 関屋より 上流の大河津に 堀割をつくり 信濃川の流れを 海に落とす 申し入れをして ある ここは しばらく 待ってくれ!!
大河津分水の 計画は 新潟町の反対や 新政府にお金が ないこともあり つくるのは むずかしいだろう
たとえ完成して 洪水は防げたと しても 亀田郷にたまった 水をへらすことは できない……
この計画は 許可され なかった。
それでは、 信濃川両岸の

回状＝自分たちの考えを書いた文をあちこちの村へ送ること。

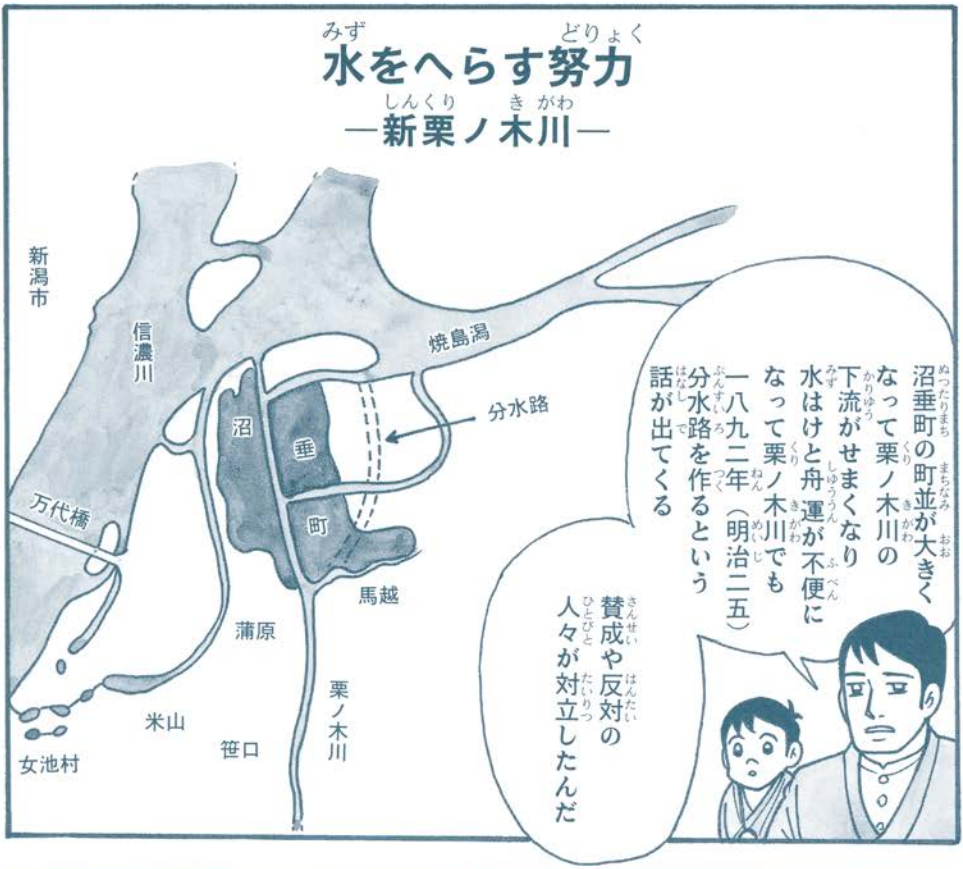


新潟府＝新政府直接の支配地として、新潟港のある新潟町に置かれた。

天朝御料＝皇室の財産。
越後府＝一八六八年、明治新政府は直接の支配地として、水原に越後府を置いたが、一八七三年、新潟県となるまで混乱が続いた。

まだ決まっていない知事を早く決めてほしいこと
知事
越後全体の政治がうまく進められるよう国にお願いをした
このことで国は大河津分水工事に次のような命令を出したんだ
一八六九年(明治二)四月一七日越後府は大河津分水工事を国のお金でつくることにした
工事の計画をすぐに立てることにする
でもねすぐに実現するわけではなかったのよ
ここでもう一度
栗ノ木川の話をしないといけないな
アンコ舟が通っていた川だ
栗ノ木川は亀田郷の水をはき出すのと同じように重要な交通路としての役割をしていたんだ
明治に入っても水害防止をめぐって上流と下流の地域で対立があったんだ

水をへらす努力
—新栗ノ木川—



しかし
賛成派が
勝って一年後には
工事に取りかかった
こうして
できたのが
現在の
新栗ノ木川
(馬越〜焼島の間)
なのよ

そのため
鳥屋野潟の
出口付近は
六センチから
九センチほど
水が下がったそうよ
さらに
逆流防止
の水門を
つくったり
明治の終わり
ごろには
亀田町に
動力排水機を
つくったんだ
みんな
亀田郷の
水をへらすことに
一生懸命だったんだね

タイムスリップが
はじまったよ!
ゴオ
あっ
台風だ!!

木津切れ、曽川切れ

ザアアー
一九一三年(大正二)八月
台風による大雨……。
ゴオオオー
信濃川・阿賀野川の
水がどんどんと
増えていく。
なんだ
この音は
ゴオオオ
うわあっ
横越村木津の小阿賀野川では、
約四三メートルあまりに
わたって堤防が切れた。
オオオ

ゴオオオー
亀田郷は一日で
泥の海になり、
死者二人、浸水
家屋一、五〇〇戸
水につかった田畑
六、〇〇〇ヘクタールという
被害を受けた。
人々はこの時の水害を
「木津切れ」と呼んだ。

一九一七年（大正六）一〇月にも
信濃川沿の曽川の
堤防が切れて、

イネの刈入れ前の
亀田郷はそのほとんどが水を
かぶってしまった。
これを「曽川切れ」という。

小さな村が自分たちの村だけを水から守り
小さな水防組織をつくってやってるようじゃ駄目だ……

そうだ これまでのやり方じゃ……

もっと大きな力で水を防がなければ

亀田郷全体が一つになってやるしかない

亀田郷水害予防組合ができる

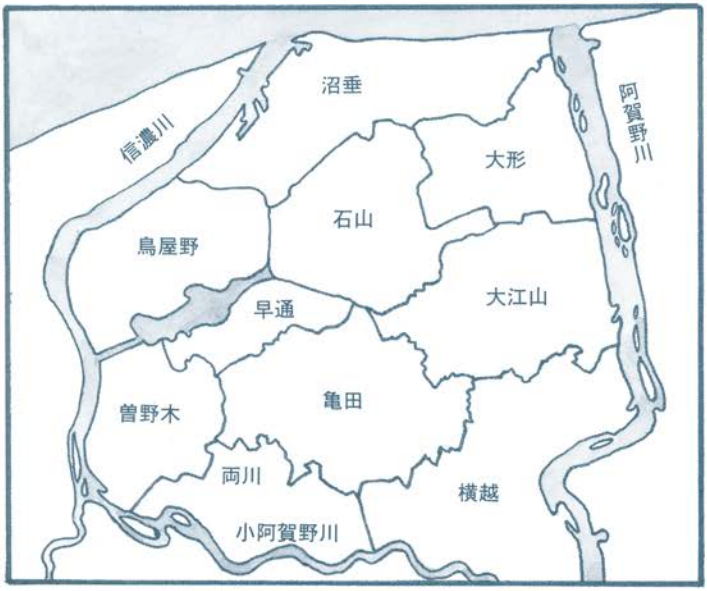
亀田郷では江戸時代に松ケ崎堀割など大きな治水工事が行われたものの小さな藩が寄り集まった越後では自分の藩のことばかりを考えていたため

一つにまとまることができなかった

明治になってからも政府が全国に先駆けて完成させた排水機の設備もこの〝木津切れ〟で役にたたなくなった

そう言われてもなァ……
オラたちの村はあまり被害を受けてないから
新しい組合には入らねえ
オラたち石山村もこれまで水利・水防の組合を作ってやってきた
かなり金もかけてきたし新しい組合に入ればまたお金がかかるんじゃないか
そんな夢みたいな話は信用できない
このままでいいならそうかもしれんが
これから一〇年、いや五〇年先もこのくりかえしでいいんか
木津切れのように大きな洪水が起きてたくさんの堤防が同時に切れたら　また同じようなめにあうんだぞ

一九一四年（大正三）横越、大江山、亀田、早通、石山、鳥屋野、沼垂、大形、曽野木、両川の一〇の町や村は、亀田郷水害予防組合を作った。このとき初めてこの一帯を「亀田郷」と呼ぶようになった。



結成された組合規則には

〝阿賀野川、小阿賀野川、信濃川、通船川の水害と栗ノ木川の逆流防止に関する事業〟を行うことが書かれている

こうして亀田郷の九、〇〇〇ヘクタールの田畑と八、二〇〇戸を水から守り

少しでも米がたくさんとれるように一〇の町や村に住む者全員が参加することを決めたんだね

さらに〝木津切れ〟によって

阿賀野川をなおす工事を求める声が高まり「中蒲原郡阿賀野川治水会」ができた

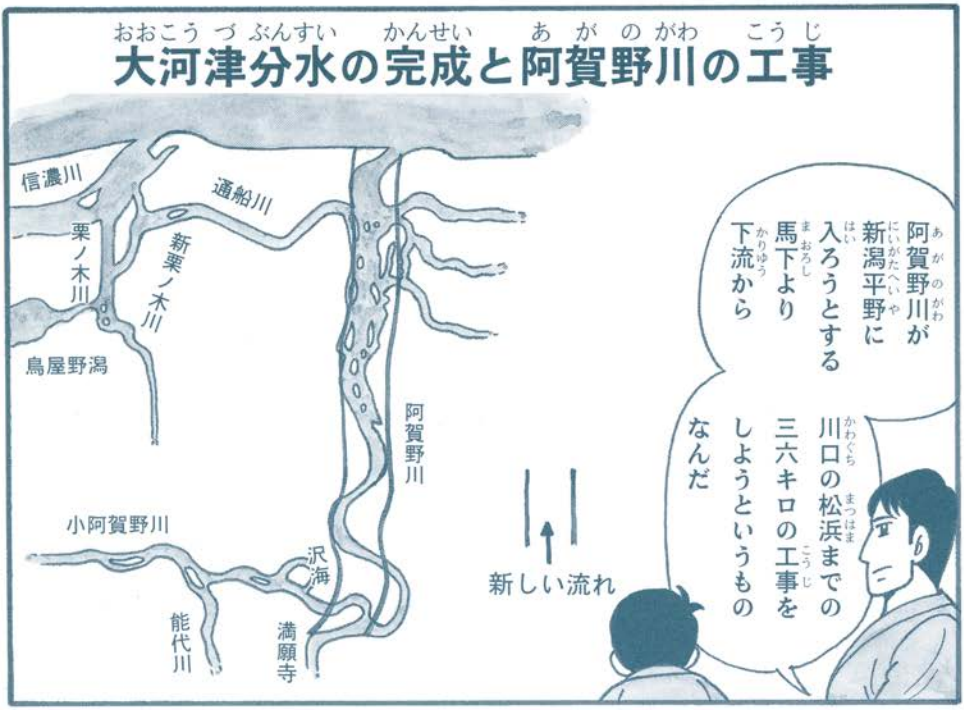
中蒲原郡阿賀野川治水会

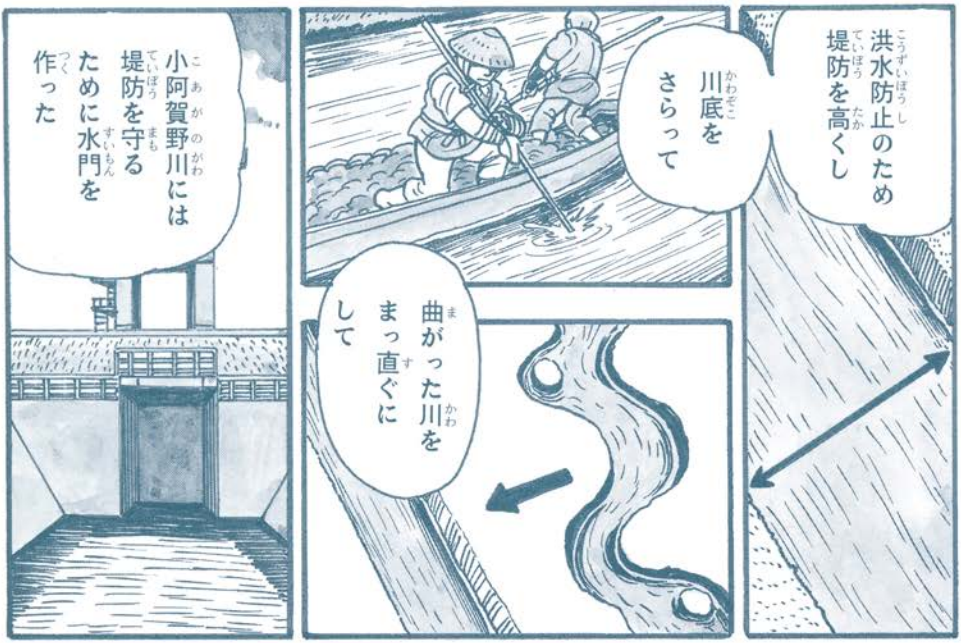
亀田郷を水から守る工事を進めてくれるように、国や県に対して訴えた。

よろしくおねがいします

一九一五年（大正四）政府は国の工事として総工費八〇〇万円（今の四〇〇億くらい）工期九年をかけて阿賀野川をなおす工事を行うことを決定する!!

大河津分水の完成と阿賀野川の工事

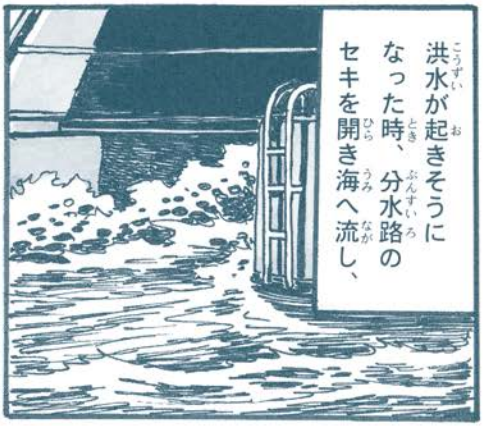




第一次世界大戦＝一九一四年七月～一八年一一月まで、ヨーロッパを中心に行われた戦争。

治水＝洪水から田畑を守ること。

財政難＝国のお金がたりないこと。


洪水が起きそうになった時、分水路のセキを開き海へ流し、

反対に信濃川の水量が少ない時には、下流の田畑に水がいきわたるようにするしくみだ。

のべ一、〇〇〇万人の人々が工事に参加した。

一九二二年（大正一一）初めて分水路に水が通され、一九二七年（昭和二）まで一八年をかけて、
大河津分水は完成した。

大河津分水の完成は亀田郷にとっては洪水の危険が少なくなるだけでなく栗ノ木川の水はけをよくして水のたまるのを防ぐのに役立ったんだ

大正デモクラシーと立ち上がる農民

―農民組合の結成と生産向上への努力―

小作争議＝小作人が、さまざまな要求を出して、地主と争うこと。

二重俵＝俵はワラでできているので米がもれやすい、それを防ぐために二重にさせられた。そのため大変手間がかかった。
ゴンダ＝ダイコンの葉を大量に切り込んで、みそで味をつけたぞうすい。

亀田郷一帯のイネは水の被害を受けるので
イネ刈りがおくれがちで
かわかすのに時間がかかったりして
品質がわるく〝鳥またぎ米〟などといわれて評判が悪く高く売れなかった
中蒲原郡農会
このままの亀田郷の米づくりじゃだめだ
米をつくるだけでなく米の質や味もよくしていかなければ
米がまずくてこれじゃ鳥でさえも食べないよ
まずい
米づくりの講習会やイネの競作会を開いたりして米作りの優秀な人たちを育てることにしよう
それはいいことですよやりましょう
こうした努力がつづけられ、昭和の初めには亀田郷の米もおいしいといわれるようになってきた。

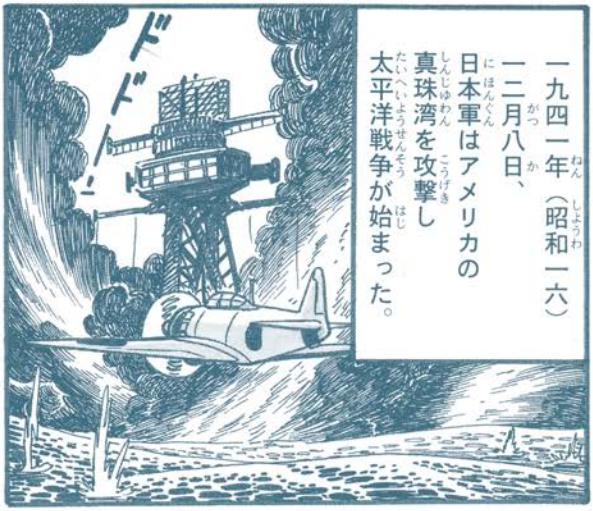
大恐慌＝物価が急に下がったりして、経済が大混乱し、不景気になること。

太平洋戦争と亀田郷の農民

肥料のお金がますます増して……
借金がふえる一方だ……
一九二九年（昭和四）という年は蒲原平野では
二〇人のうち六人が小作をしていたのよ
地主と小作人の間はうまくいっていなかった。
肥料や資材の費用がかさんで苦しいのです
小作料をまけてください
いくら組合からの要求でもダメだオレたちも苦しいのだ!!

日中戦争＝一九三七年（昭和一二）七月七日の蘆溝橋事件に始まる日本と中国との戦争。

空襲＝飛行機で攻撃すること。



国民学校高等科＝いまの小学校六年生から、中学校二年生くらいの子供たち。

一九四五年(昭和二〇)八月一日
長岡市が空襲で
焼け野原になり、
新潟市も
空襲をうけるようになると、
工事は思うように進まなく
なってしまった。

八月六日には
広島、九日には
長崎に原子爆弾が
落とされた。
とうとう日本は
八月一五日、無条件
降伏した。
日本が
負けたのか
……
こうして
長い
戦争時代は
終わったのね

配給＝少ない物や食べ物を、家ごとに割りあてて売ること。

生まれ変わる亀田郷
―新しい憲法と農地改革―

日本中で食料が不足していたので、農民は米や野菜づくりに力を入れた。

長い間の願いであった、婦人参政権もみとめられた。

二〇歳以上の男女がすべて選挙権をもつのよ

私たち女性の考えも政治に生かせるのね

一九四七年（昭和二二）の衆議院議員選挙には、全国からたくさんの女性議員が選ばれた。

新潟県からも二人の女性が当選したのよ

新憲法ができて、
いろいろな権利がみとめられていく
地主王国といわれた新潟県は

一九四五年（昭和二〇）に農地改革法がはじめられると、大きく変わって行った。

亀田郷の農民にも新しい時代の幕が開けた。
おい聞いたか!!
聞いたぞ!!

地主の農地を国が買い上げて

オラたち小作人に安く分けてくれるんだと

オラたちが土地を持てるようになるのか

そうとも働いた分だけオラたちのものになるのだ

これで長い間の夢がかなうな

一九五〇年（昭和二五）になると農地改革で自分の土地を持つ農家は一〇軒のうち七軒に増え小作人がようやく自分の土地を持つことができた。

わしら地主の時代はもうこれで終わりだ……

ガクッ

栗ノ木排水機場の完成

―亀田郷土地改良区ができる―

一九四八年(昭和二三)栗ノ木排水機場が運転を開始する。

いよいよだなァ

長かったなァ戦争中から工事を続けてようやくだ

あのころはセメントや鉄筋が不足して

いちばん困ったのは戦争のために工事で働く人が集まらんことだった……

それでも亀田郷のみんなは

自分たちも工事を手伝ったり食料を届けたりしてよく協力しあったよ

地盤が悪いところでは工事が進まず

戦争があって大変だったが五年がかりでついに完成したんだな

排水ポンプ
一〇台が動き始めると、
一秒間に四〇立方メートルの
水が川へはき出された。

このおかげで、鳥屋野潟の
水位は、約一メートルも
下がるほどだった。

バンザイ
バンザイ

先祖代々
水はけの悪い
ところで
水田をつくり
水害に
悩まされて
きたが……

これからの
亀田郷は
変わるぞ!!

同じ一九四八年(昭和二三)亀田郷の人たちは耕地整理組合をつくった。

栗ノ木排水機場の完成により農業のやり方も変った

たまった水は川に流せるようになったし……

だけどねオラたちの村では水位が下がって

田植えの水が足りなくなったり

信濃川への水が流れにくくもなったりしている

下流の方じゃ水不足で鳥屋野潟の水をくみ上げている

そうだものを運んだり遠くに行くときに便利だった舟も使えなくなってきているんだ

土地改良＝用・排水路や道路をきちんと作り、土地を分け直したりして、農業をやりやすくするなど、土地の基盤をつくる。

乾田化＝水はけのよい田んぼに変えること。

土地改良の工事が完成するまでには大変な苦労があったが、

日本はもとより外国からも注目を浴びる立派な耕地に、亀田郷は生まれ変わっていった。

四角います目のようになった田んぼは美しいのう

用・排水路もできて昔からみるといい田んぼになったなァ

あのころのなんぎしたことを考えればほんによかったのう

ほんにのうありがてえことだてば

米づくりが変わる
—牛馬を使える農業に—

胸までつかって田植をしていたアシ沼から

水が引いてすっかり変わった亀田郷では米づくりの方法も変わってきたんだ

人の力だけでなく、牛や馬が使えるようになり、

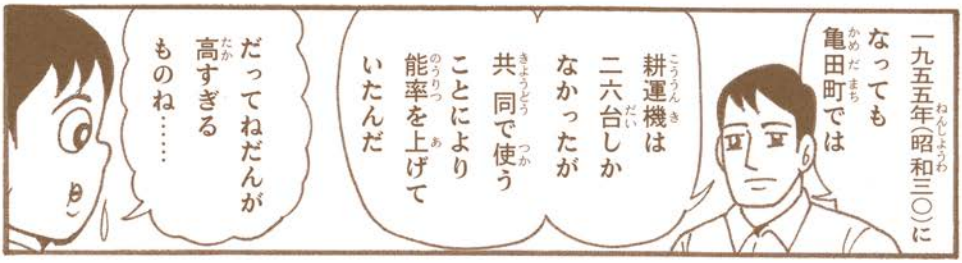
牛や馬を売る店や、牛や馬が引っ張る農機具を作る人たちも現れた。

一九五六年(昭和三一)の亀田郷の牛馬は、およそ二、四〇〇頭にもなった。

さらに土地改良は進められ、

一反歩(約一、〇〇〇平方メートル)が何枚にも分かれていた田んぼは、

耕運機＝初めは一台今のお金で四〇〇万円ぐらいした。だんだん使われるようになり、値段も安くなった。


一九五五年(昭和三〇)になっても亀田町では
耕運機は二六台しかなかったが共同で使うことにより能率を上げていたんだ
だってねだんが高すぎるものね……

しかし、一九六一年(昭和三六)になると機械を使う農家はどんどんふえ、耕運機で耕作した田の面積は八七・六%にもなった。
でもね後になって農家は機械のお金を払うのに苦労したんだ

農家は今と違って
田植えや稲刈りは家族そろってやったんだよ
子供はみんなお手伝いさ

ぼくらは勉強と
遊びだけだけど
でも遊びもしたんでしょうお父さん

そりゃそうさ魚とりにメンコ
コマまわしなどたくさんの遊びがあったでも感心するのはみんなよく働いたってことだね

子供たちの生活

—子供たちも手伝った農作業・テレビ放送も始まる—

高学年の子は田んぼに入って田植えをした。

小さい子は、苗のたばを田の中に投げる仕事だ。

イネ刈りのときは牛車を引いてイネを運んだり、

イネをハサ木にかけて干す仕事を手伝ったりした。

顔や体中泥だらけになりながら……。

女の子は子守りをした。

仕事が終わると、男の子の一番の楽しみは魚釣りやドジョウとりだった。
ズコ ズコ
ミミズはこれぐらいあればいいだろう
よし こっちは「はえなわ」の釣針にミミズをつける
オラはドジョウとりの筒だ
いいか 入れるぞ
よし
それっ!!
ドボ ドボ
「はえなわ」のしるしはこれでよし
つぎはドジョウのしかけだ

よっしゃ
これで
あしたの
朝が楽しみだ
ザブ
ザブ
いいか
あげるぞ
ザザ
やったぜ！
ウナギに
ナマズ
雷魚もだ！

ドジョウも
いっぱいとれたし

ドジョウが
売れたら
家から
おこづかいを
もらえるぞ
これで
ビー玉と
めんこが買えるよ

こうした
生活は
一九五五年(昭和三〇)ごろ
まで続いたのよ

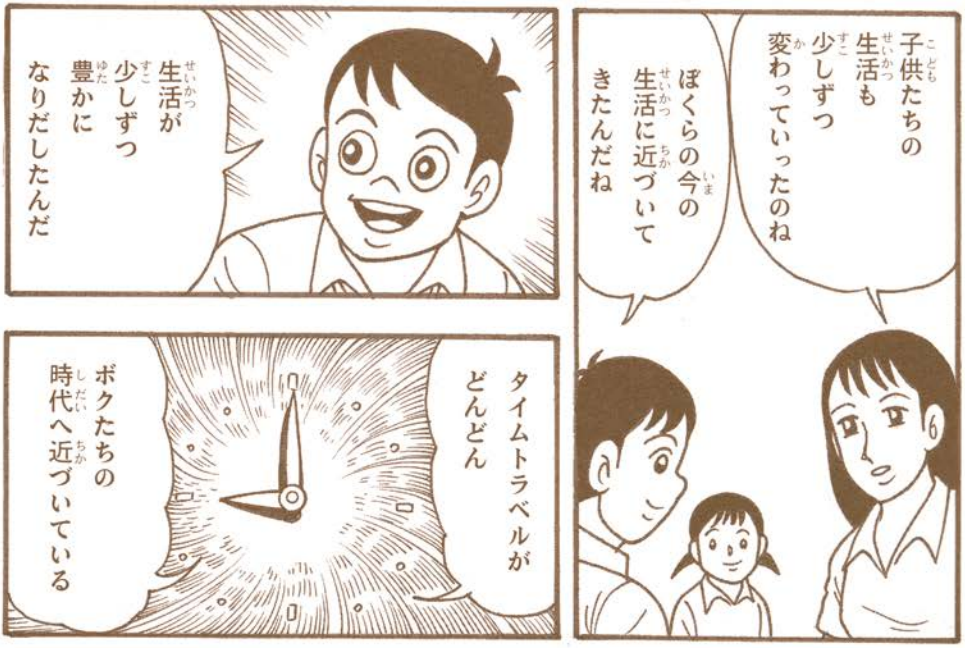
一九五八年(昭和三三)
一〇月には
新潟県でも
テレビ放送が
始まったわ

おばんです
テレビ見せて
もらって
いいかね
ああ
入んなさい

テレビをもっている
家はめずらしかった
ので、テレビのある家
に集まりいっしょに
見ていたが、
翌年には、

新潟市で約一万九、〇〇〇台のテレビが、各家庭や事業所に入り、
テレビを持つ家庭は三軒に二軒の割合まで普及した。

さらに冷蔵庫や電機洗濯機も使われるようになった。


子供たちの生活も少しずつ変わっていったのね
ぼくらの今の生活に近づいてきたんだね
生活が少しずつ豊かになりだしたんだ
タイムトラベルがどんどん
ボクたちの時代へ近づいている

新しい災害
—地盤沈下・新潟地震の大被害—

一九五〇年(昭和二五)ころから新潟市・亀田町・新津市の平野部で地盤が沈んでいると報告されるようになった新潟市では

海の水が流れこんでいるぞ……

亀田郷でも、用水が流れなくなるし排水路もこわれたりしている……

土地改良がほぼ完成しようとしているのに……

土地が沈んで行くなんていったいどうしたんだ……

そんなとき、一九五八年(昭和三三)に台風一一号が新潟県をおそった。

水に浸かった家は一万戸以上、冠水した農地は七、〇〇〇ヘクタールにもなった。

栗ノ木排水機場のポンプも排水する力が急に弱くなってしまった。

これは地盤沈下による被害だ!!

原因は工場が地下から天然ガスなどを取るために

地下水を汲み上げたためだ

ガス会社はすぐガスを掘るのをやめろ!

沈下農地を救え!!

こわれた水路を直せ!!

この抗議行動は全国的に取り上げられ

国や県も対策に動き出した

一九六〇年(昭和三五)に大きな災害のときにも役立つように

栗ノ木排水機場に大きなポンプ二台を増やし、

翌一九六一年には、新潟市を中心に三〇〇本のガス井戸を使うことを止めさせた。

たくさんの人たちの反対運動のおかげで地盤の沈む速さが少し遅くなってきたが……

一九六四年(昭和三九)六月一六日午後一時二分ごろ、

粟島沖を震源としたマグニチュード七・五の大地震が発生した。

ドオオオ

新潟市を中心に大きな被害が出た。
この大地震で新潟市では一一人が亡くなり約一四万四、〇〇〇人が被害をうけた。
亀田郷では茅野山用水路などがこわれ、
各地の排水ポンプが動かなくなり、栗ノ木排水機場も大きな打撃を受けたが、
農民たちは協力しながら、復旧作業に当たり国や県にも早く元どおりになるようお願いした。
全国の人たちからたくさんの募金や救助物資が新潟県に届けられたのよ
こうした協力のおかげで復興できたんだよ
いつかご恩がえしをしなくちゃ……

進む洪水対策

―親松排水機場と関屋分水の完成―

亀田郷の新しい悩み
―都市化による影響―

亀田郷は すばらしい 土地になったが 新しい 悩みもでて きたんだよ

どうして ……

亀田郷は 新潟市に 近いから どんどん田んぼが 開発されて 農村地帯の 亀田郷に 住宅・商店・ 工場などが続々と 建てられるように なった

土地の値段が 上がるようになる

一九六五年(昭和四〇)には 田んぼ一〇アール当たり 五〇万円、畑が六〇万円 くらいだったのが 五年後には 二〇〇万円 さらに 一〇年後の 一九七五年(昭和五〇)には 一〇〇〇万円と はねあがったんだね

ひゃ〜っ 一〇年で 二〇倍も値上が りしたの……

市街化調整区域＝建物を建ててはいけない区域。

農業の機械化と兼業農家

兼業農家＝農業のほかに、他の仕事をする農家。

減反政策＝イネの作付け面積をへらす政策。

越の国に光り輝くコシヒカリ

一九五六年（昭和三一）には新潟県が奨励品種に採用して、ここで正式にコシヒカリと名づけられた。

よみがえれ鳥屋野潟

鳥屋野潟は亀田郷にとって昔から大切な湖なんだ
大雨がふったときには、水をためることができた
沼地のような田んぼに土を入れるための土取り場でもあり
フナやコイなどの淡水魚が多く
重要な食料源にもなっていたが

亀田郷にたくさんの家が建つようになった
一九六〇年代から工場や台所の汚水が流れ込み
かつての鳥屋野潟ではなくなってしまった

一九七五年(昭和五〇)四月二〇日「鳥屋野潟整備促進住民総決起大会」が開かれ、公害対策を進めろ!!

鳥屋野潟を生き返らせろ!!

魚を返せ!!

みんなで住みよい環境作りを訴えたの

よごれた鳥屋野潟も少しずつきれいになってきて

平成時代に入ると新潟県も公園整備計画に力を入れ出したわ

鳥屋野潟は亀田郷の水はけ場としての役割だけでなく

昔のように魚や鳥の集まる美しい湖に生まれかわらせなければいけないわね

そうなるといいね

交通網の整備が進む亀田郷

一九七七年(昭和五二)に両川地区嘉瀬を起点に、鍋潟、西野、横越、木津までの二〇キロの広域農道が、初めて完成した。

また
一九七〇年～一九八八年
（昭和四五～六三）までに
農免道路
樹園地農道
などが次々に作られ、
亀田郷内に
作られた
舗装農道は、
幹線だけで一四路線、
延べ八〇キロになった。

一九七〇年（昭和四五）には
新潟市内でつながる
国道七号線、八号線の
新潟バイパスが開通した。
一九七四年には国道四九号線の
亀田バイパスが
完成し、

新潟バイパス
亀田バイパス
8号線
7号線
新潟バイパス

さらに一九七七年（昭和五二）に
国道四〇三号線の
新津バイパスが開通した。

亀田バイパス
新津バイパス
信越本線

こうして
クルマ社会になると
大型スーパーや
小売店ができて
どんどん
亀田郷は
都市化していく

スーパー
花丸

一九八二年(昭和五七)には上越新幹線が開通。
鉄道研究部
祝 上越新幹線 開業
やるぞ 一番乗り!!
一九八五年(昭和六〇)に関越自動車道も開通。

また一九九七年(平成九)には磐越自動車道も開通して、
全国からたくさんの人たちが新潟県に来るようになった
すごい速さで発展しているんだ……
ふ〜〜っ

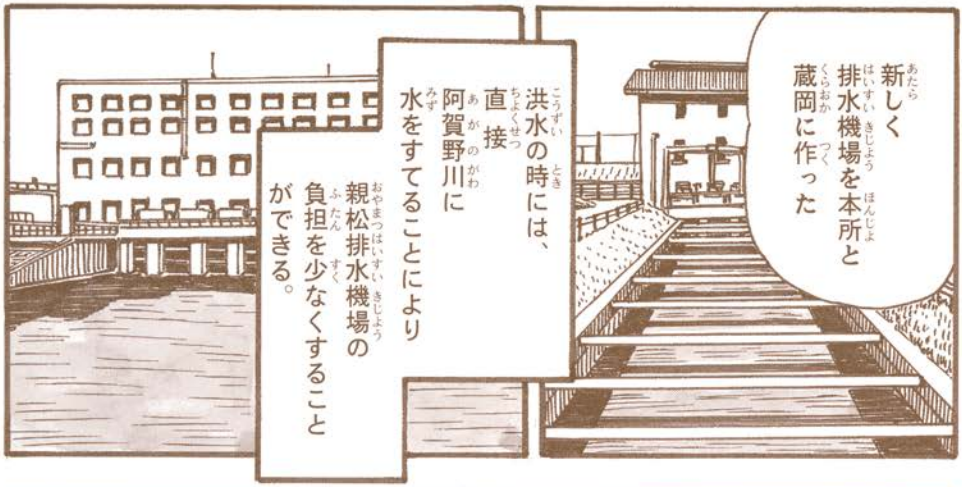
お父さんもうすぐもとの時間にもどれそうだよ
そうだね無事に帰れそうだ

よしつぎは現在の亀田郷では水害に負けないためにどんな努力をしているのかみてみよう

水害に負けないために
—湛水を防ぎ農地を守るかんがい—

湛水＝水が流れないでたまってしまうこと。

かんがい＝水路を作って田畑に必要な水を引くこと。


新しく排水機場を本所と蔵岡に作った
洪水の時には、直接阿賀野川に水をすてることにより親松排水機場の負担を少なくすることができる。

鳥屋野潟に水を流す亀田郷の南西部については
幹線排水路を現在工事中なんだね

また親松排水機場の隣に新しい排水機場の建設が進められている
地域のより大きな安全のためにポンプのパワーアップや新しいシステムを考えているんだよ
すごい努力をしているんだね

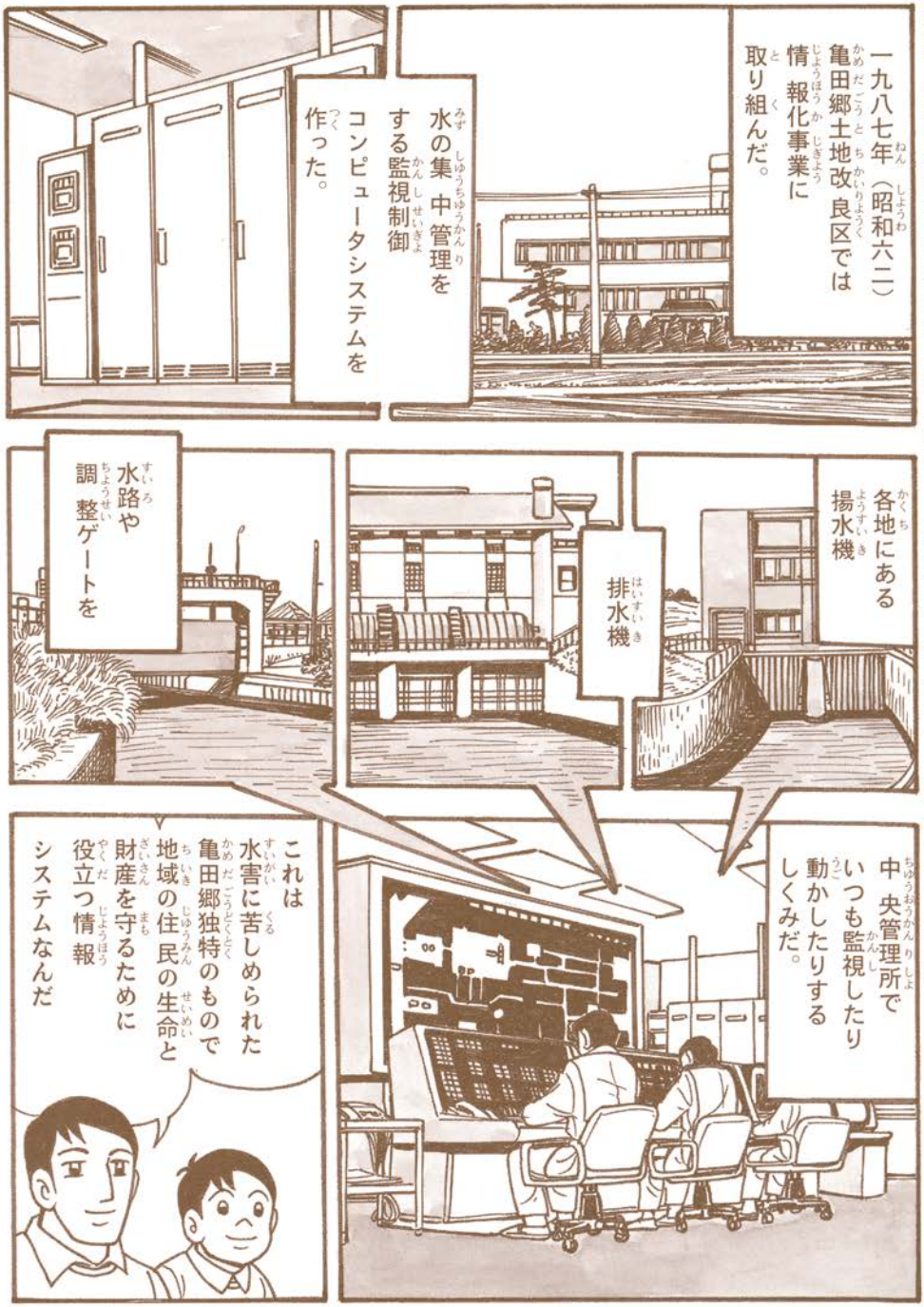
押し寄せる自由化の波
—農産物輸入自由化と農業—

農産物輸入自由化＝農産物の、輸入の値段や数量の制限をしないで、外国と自由に貿易させること。

このたった一年の不作で
米の輸入が決まってしまったんだよ
でも今はお米は余っているんでしょう
そう減反政策も続いているなんだかへんな話だよね
あんなにお米がなくなるって大騒ぎしたのにね
これからの米作りをどうしたらよいのか外国の米も入ってくるから国際化に向けて農家の人たちも新しい米づくりを考えているんだよ
21世紀に向かって
—情報化時代—
農業も世界の国々と協力していく時代だね
こういう時には情報が大切なものになってくるんだ…

揚水機＝必要な水をポンプの力で川からくみ上る機械。

排水機＝いらない水をポンプの力で川へはき出す機械。



また、いろいろな情報をパソコンのネットワークを通じて亀田郷の組合員や住民に提供している。
家にいながら生活に結びついた情報をキャッチできる
米づくりや野菜づくりの意見も交換できるようになっている
パソコンを動かしてみよう
うん
まず受委託耕作システム
カチャッ カチャッ
農業をまかせたい人や
まかせてほしい人がおたがいの情報を交換できるしくみだ
次は市況情報システムにいくよ

農産物を売る場合にその時々の農産物のねだんの動きを知らせてくれるんだ
気象情報システムは亀田郷とその周辺の時間別の天気予報が分かるんだ

次は稲作システムだイネの生育情報や病害虫の発生情報を自宅にいながら知ることができる
すごいや

この他に経営管理生産管理出荷管理などのシステムがあるんだよ

今までの農村では少なかったコンピュータによる情報化
このネットワークを通して亀田郷の農家はだれでも見ることができるんだよ

農業が国際的に肩を並べてゆくためにも最も新しい情報を手に入れて農業に役立てていく必要がある

それがこれからの農業の姿なんだろうね
うん そうだよね

若者に希望の持てる農業を

一九五五年（昭和三〇）当時亀田郷土地改良区は土地改良という大事業を成功させるために

二四億円というケタはずれの借金を抱えていたんだ

ひえ～っ

この時、三二歳の若さで佐野藤三郎が理事長に就任した。

亀田郷の人々の願いを訴えるために、

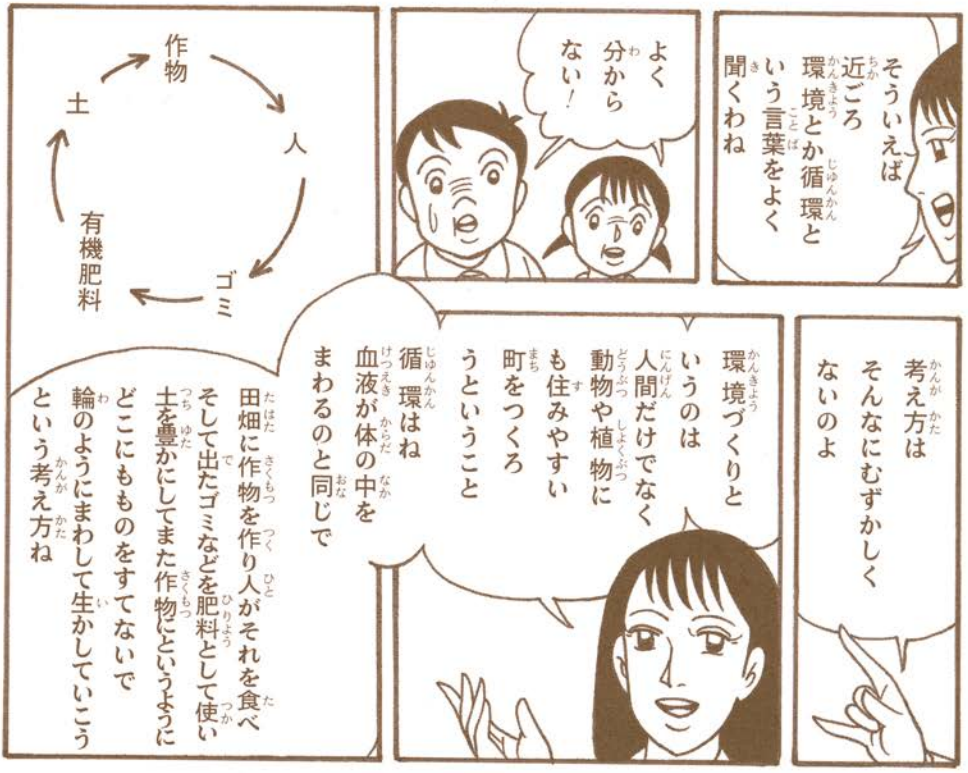
国の役人とも熱心に話し合い、亀田郷のために努力をつづけた。

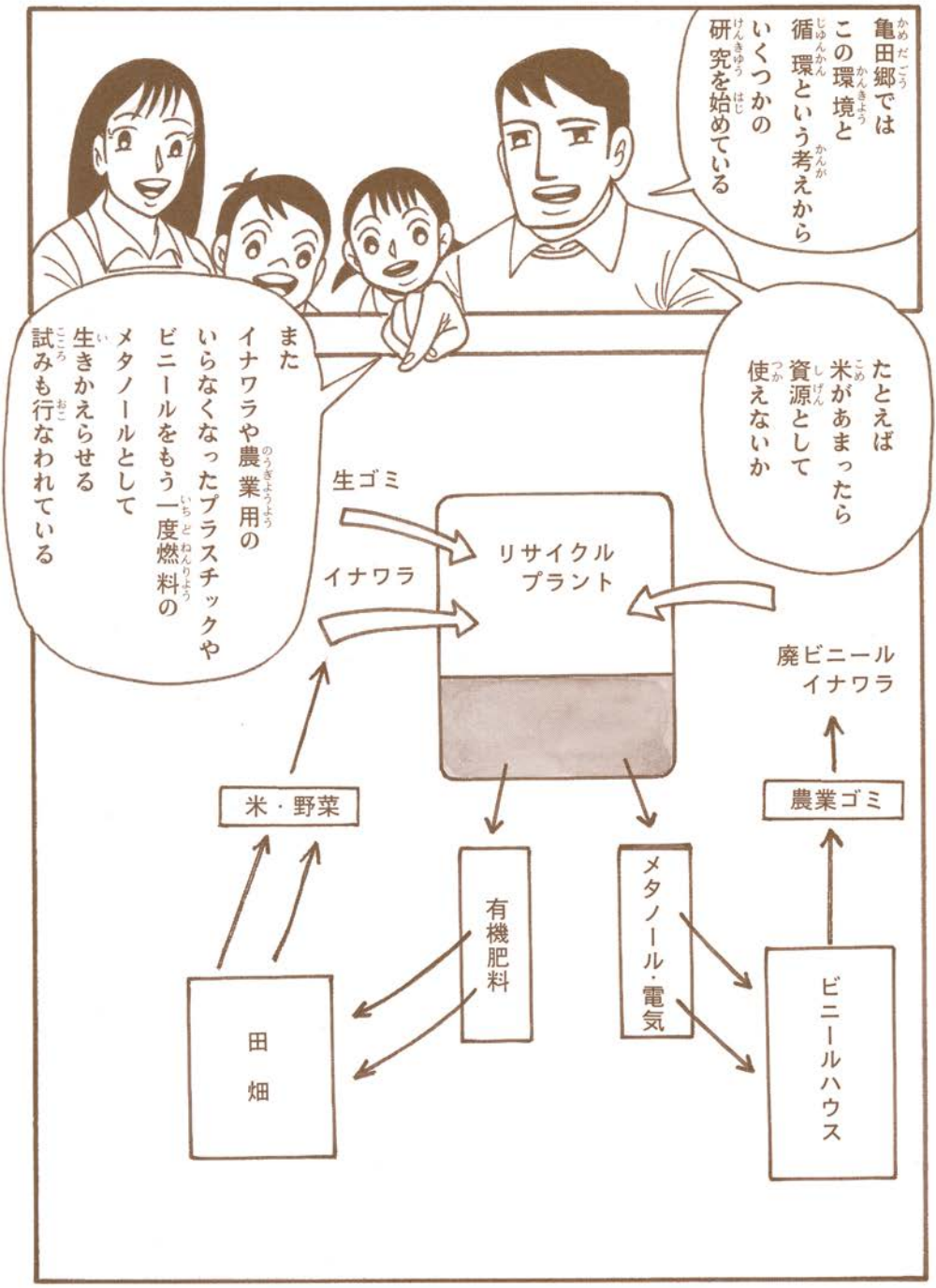
一九九四年（平成六）七一歳で亡くなるまでの約四〇年間、

不可能とも思えるような数々の仕事をいつも先頭に立って成功させてきた。
農業こそ国造りの基本だという考えに立って、理想的な都市と農村づくりにはげんだ。
佐野藤三郎はいつもこういって亀田郷の人々に訴えた。
若者に希望のもてる農業を育てなければならない！
用・排水施設を完備して住民に洪水の不安をあたえないようにすることだ!!
亀田郷は都市と農村が調和を保って発展しなくてはならない！

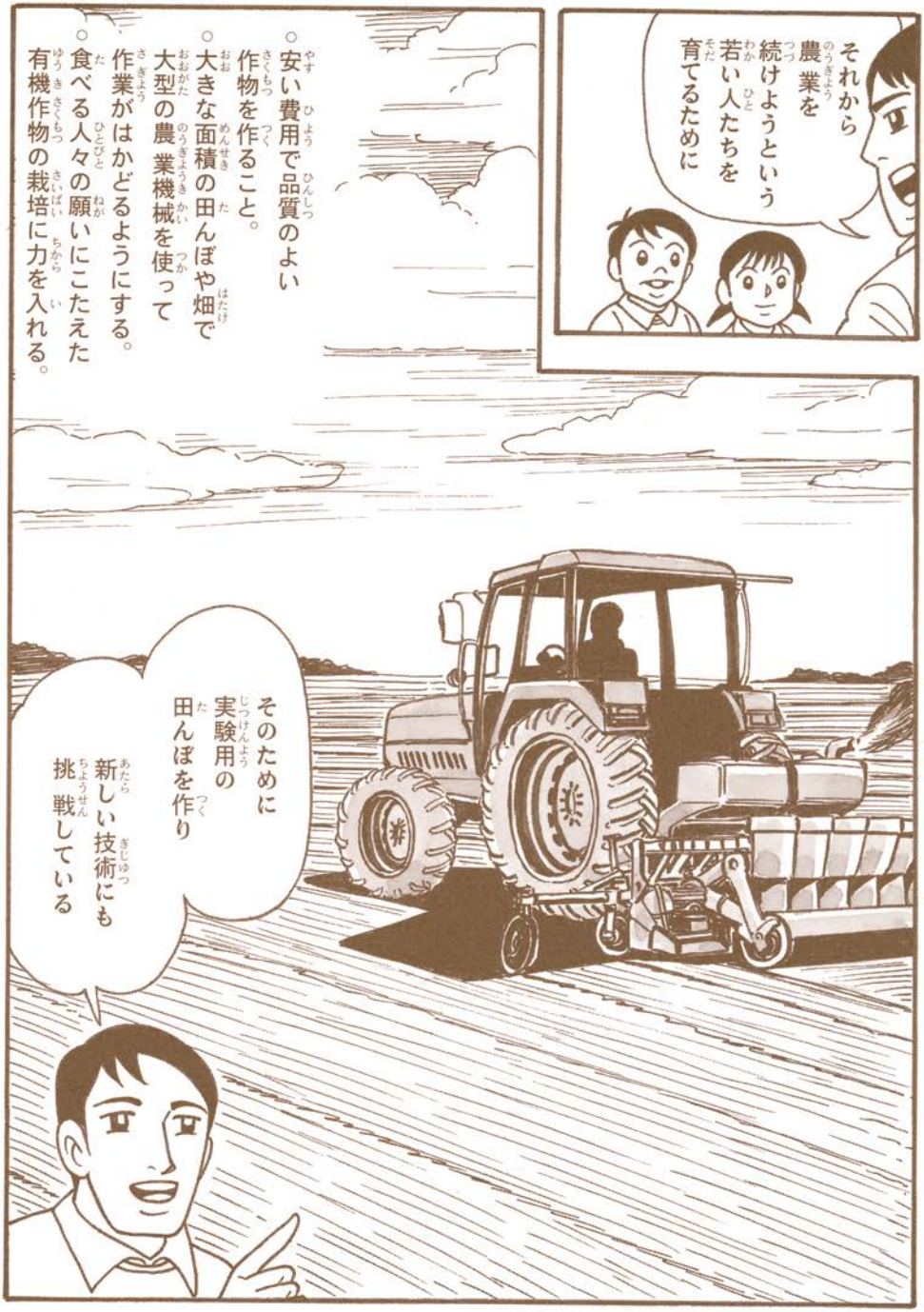
これからの亀田郷

佐野藤三郎の願いは亀田郷の人々みんなの願いでもある
新しいふるさとづくりを目標に今さまざまな努力が続けられている

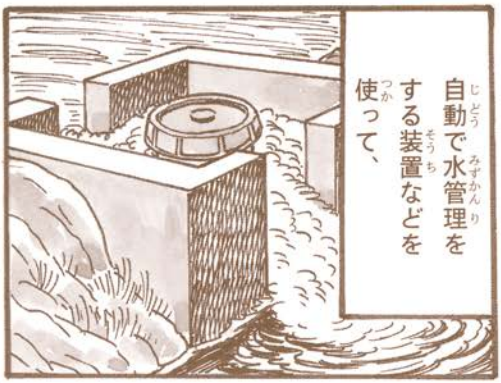

そういえば近ごろ環境とか循環という言葉をよく聞くわね
よく分からない！
考え方はそんなにむずかしくないのよ
環境づくりというのは人間だけでなく動物や植物にも住みやすい町をつくろうということ
循環はね血液が体の中をまわるのと同じで
田畑に作物を作り人がそれを食べそして出たゴミなどを肥料として使い土を豊かにしてまた作物にというようにどこにもものをすてないで輪のようにまわして生かしていこうという考え方ね
作物
人
ゴミ
有機肥料
土

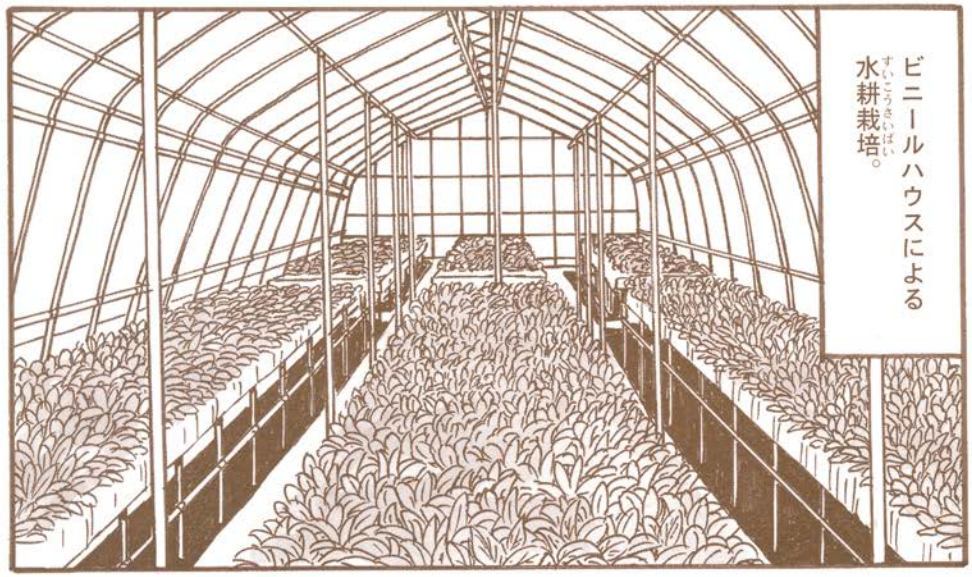

亀田郷では
この環境と
循環という考えから
いくつかの
研究を始めている
たとえば
米があまったら
資源として
使えないか
また
イナワラや農業用の
いらなくなったプラスチックや
ビニールをもう一度燃料の
メタノールとして
生きかえらせる
試みも行なわれている
生ゴミ
イナワラ
リサイクル
プラント
廃ビニール
イナワラ
米・野菜
農業ゴミ
有機肥料
メタノール・電気
田
畑
ビニールハウス

有機作物＝農薬を少なくして、魚かすや油かす、堆肥などの肥料を使って、作った作物。



水耕栽培＝土を使わずに肥料をとかした水の中で作物を育てること。





鳥屋野潟の南部に約二七〇ヘクタールに及ぶ計画で、この地区は四つのゾーンに分けられている。

① 総合スポーツゾーン
② 住居ゾーン
③ 国際文化・教育ゾーン
④ 総合レクリエーションゾーン

鳥屋野潟

住居ゾーンは、
快適な環境を
生かした
住宅地を作る。

総合スポーツゾーンは、
健康に役立つ
スポーツ施設を備えた場所で、
すでに県立
鳥屋野公園の一環として
事業がおこなわれている。

一九九八年（平成一〇）
八月～一〇月
には、全国都市緑化
フェアの新潟会場に
使われた。

さらに二〇〇二年には、ワールドカップサッカーがこのスポーツゾーンで行われる。

国際文化教育ゾーンは、文化的な施設をつくり、国際交流 人材育成 研究 開発などを充 実させようという区画。

総合レクリエーションゾーンは、たくさんの人たちが楽しめる設備や買い物も楽しめるお店も作ろうという区画。

共生＝お互いに足りないところを助け合いながらいっしょに生きていくこと。

あれっ!?

時計が消えてる……

どうしてだろうねお父さん……
それはたぶん
ボクたちが今の時代へもどってきたからじゃないかな

あのタイムマシンの時計はきっと亀田郷の歴史を
この土地や自然がどんなものだったのか先祖の人々がどんなに苦労したかを

タケルやサクラに知ってほしくてあらわれたのだと思うよ

きっとそうだね
とてもいい勉強になったよ
わたしも思ってもみなかったことばかりだったわ

昔の子供は
ずいぶん働いたって
分かったし

佐野さんという
立派な人が
いたことも
分かったよ

そう自分たちの町の
歴史を知ることは
とても大切な
ことなんだよ
みんなが
何げなく
みている
排水機場
だって

亀田郷に生きた
たくさんの人たちの
血のにじむような
努力があったから
できたんだ

今だって
亀田郷の人たちは
その努力を忘れて
いないよ
これからも亀田郷は
ますます
発展して
ゆくだろう

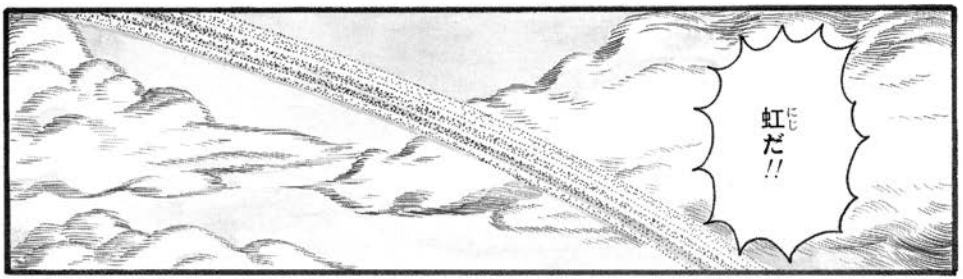
自分たちのふるさとをもう一度新しい目で見直すには
大昔からたくさんの人々が努力をし

自然を自分たちの暮らしに役立つように変えて来た歴史があることを忘れてはならないね
そして自然となかよく生きていくこともね

大切なことだものね
あの時計にもう一度会えるかなァ……

会えなくても二人の胸の中にしっかりときざまれているよ

あっ
お父さんお母さん見て!!



あの虹のように
美しい
二一世紀のために

これからの
亀田郷の
〝ふるさとづくり〟を
子供たちみんなで
考えてほしいな

亀田郷のおもな年表

西暦	年号	亀田郷	新潟県・日本・世界
		笹山（新潟市）、城山（亀田町）などの砂丘に人が住み始める	中国の江南で稲作が始まる
		砂崩（亀田町）、中山（新潟市）、小丸山（新潟市）などの砂丘に人が住み始める	メソポタミア文明栄える 三内丸山（青森県）縄文都市栄える エジプト、インダス文明興る
	縄文時代前期 （約六〇〇〇年前） 縄文時代中期 （約五〇〇〇年前）		卑弥呼、邪馬台国を治める 大化の改新（六四五年） 大宝律令（七〇二年）制定 古事記（七一二年）の編さん
	弥生時代後期 （二世紀ごろ）	新潟に稲作が伝わる（六地山遺跡） 緒立（黒埼町）に古墳がつくられる	坂上田村麻呂、蝦夷を征討する（七九〇年代） 城資盛、幕府にそむく（一二〇一年）
六四七	大化3	亭足柵がつくられる	後鳥羽上皇、承久の乱を起こす
八世紀前半～一〇世紀		的場（新潟市）が漁業基地として栄える	蒙古襲来（一二七四、一二八一年） 鎌倉幕府亡び新田義貞、越後守になる
一二〇七	承元元	蒲原の津、栄える	越後、足利方、新田方に分かれて争う
一二二一	承久3	親鸞上人、越後に流される	室町幕府成立。南北朝分立
一二七一	文永8	順徳上皇、佐渡に流される	
一三三三	元弘3	日蓮上人、佐渡に流される	
一三三五	建武2	色部高長、小国政光らと松崎で戦う	
一三三六	3	蒲原津、沼垂湊を中心に足利・新田方が合戦	

一五五〇	天文19	上杉謙信、本庄繁長討伐に部下を新潟町へ
一五六八	永禄11	上杉景勝、新発田重家に備え木場城を造る
一五八一	天正9	景勝、新潟城、沼垂城を攻め落とす
一五八六	14	溝口秀勝が新発田城主に、亀田郷を支配する
一五九八	慶長3	洪水で阿賀野川と信濃川が合流する
一六〇三	8	亀田町が誕生、翌年三・九の市始まる
一六三一	寛永8	全国から約三五〇〇隻の船が新潟港に入り、新潟町は港町として栄える
一六九三	元禄6	上和田村など農民が庄屋罷免運動を起こす
一六九七	10	松ケ崎堀割が完成するが、翌年こわれる（阿賀野川が現在の河口となる）
一七〇五	宝永2	通船川を切り開く
一七三〇	享保15	新潟町が幕府領となり川村修就が初代奉行
一七七三	安永2	五カ国条約を結び、新潟が開港場となる
一八四三	天保14	新潟港にロシア船などの外国船が来る
一八五四	安政元	長尾景虎（謙信）越後国主の地位に
一八五八	5	本能寺の変（一五八二年）起こる
一八五九	6	豊臣秀吉、天下統一する
一八六七	慶応3	徳川家康が江戸幕府を開く
		新発田藩、農民に十九カ条の法度書を示す
		徳川吉宗が政治の改革を行う
		日米和親条約を結ぶ
		大政奉還

一八六八	明治元		亀田町農民が新政府軍に参加し会津軍と戦う
一八六九	2		関屋掘割り騒動が起き亀田郷の農民が参加
一八七二	5		早通村、亀田町、横越村に小学校開校
一八七五	8		蒲原地方で地租改正事業始まる
一八八二	15		亀田川汽船会社設立、あんこ船から蒸気船へ
一八八六	19		蒲原村外八十一カ町村が水利土功会設立
一八八九	22		
一八九一	24		県道新潟―若松線開通
一八九四	27		栗ノ木川分水路開削工事始まる
一八九六	29		木津破堤、亀田郷一帯冠水する
一八九七	30		北越鉄道、沼垂―一ノ木戸開通、亀田駅開業
一九〇四	37		
一九一三	大正2		木津破堤、亀田郷全域浸水する
一九一四	3		亀田郷水害予防組合結成する
			沼垂町が新潟市に合併する
一九一七	6		曽川破堤、亀田郷内泥海となる
一九一八	7		
一九二二	11		
一九二三	12		

戊辰戦争起こる
版籍奉還の実施
学制公布される
信濃川河身改修工事始まる
大日本帝国憲法発布される
日清戦争起こる
信濃川流末改修工事始まる
日露戦争起こる
第一次世界大戦始まる
全国に米騒動。シベリア出兵
大河津分水工事完成、通水開始
関東大震災が起こる

一九二四	13	亀田郷小作組合連合会が結成される	
一九二五	14	亀田と水原にバス運行開始	
一九三一	昭和6		
一九三三	8	阿賀野川河川改修工事が完成する	
一九三七	12		
一九四一	16	小学校を国民学校に改称	
一九四三	18	大形・石山・鳥屋野村が新潟市に合併	
一九四五	20	新潟市、米軍機B29に空襲される	
一九四六	21		
一九四七	22	新潟市で学校給食始まる	
一九四八	23	栗ノ木排水機場ができる 亀田郷耕地整理組合ができる（今の亀田郷土地改良区）	普通選挙法成立する 満州事変起こる
			日中戦争が始まる 太平洋戦争が始まる
一九五〇	25		太平洋戦争が終わる 農地改革始まる 日本国憲法が施行、普通選挙実施
一九五五	30		朝鮮戦争が始まる 新潟大火が起こる
一九五七	32	新潟市や亀田郷で地盤沈下が問題になる	
一九五八	33	三回の台風で大きな被害を受ける	
一九六三	38		新潟県でテレビ放送が始まる 1月大雪で大きな被害を受ける
一九六四	39	新潟地震が起き大きな被害を受ける	第19回新潟国体が開かれる

一九六四	39	東京オリンピックが開かれる
一九六六	41	新潟～ナホトカ間定期航路開設
一九六七	42	上越線、新清水トンネル開通
一九六八	43	イタイイタイ病・水俣病の原因発表
一九六九	44	新潟東港が開港する
一九七二	47	関屋分水ができる 札幌冬季オリンピック開催 公害問題が深刻化 ベトナム戦争終結 貿易黒字対策で農産物を緊急輸入
一九七四	49	伊豆大島沖で地震発生
一九七五	50	東京サミット開幕
一九七七	52	イラン・イラク戦争起こる 東北新幹線開業
一九七八	53	新潟県と中国黒龍江省が友好県省提携
一九七九	54	伊豆諸島の三宅島が大噴火 日米農産物交渉で牛肉輸入枠は年六〇〇〇トン増加
一九八〇	55	7・17水害で大きな被害を受ける 羽越水害で大きな被害を受ける 親松排水機場ができる 第23回全国植樹祭が開かれ、天皇・皇后両陛下が嘉瀬ホ場を視察される 亀田バイパスが完成する 鳥屋野潟整備促進総決起大会が開かれる 広域農道や新津バイパスが完成する 6・26梅雨前線水害で亀田郷も被害を受ける 新潟市がハルピン市との友好都市宣言に調印 新潟市の人口が四十五万人の大台をこえる
一九八二	57	上越新幹線開業
一九八三	58	中・下越の平野部で大雪
一九八四	59	二本木排水機場完成 新潟博開幕（上越新幹線開通記念） 新潟市に史上二番目の豪雨 鳥屋野潟周辺で新潟市民ら五〇〇〇人がご

一九八五	60		み拾いなどクリーン作業を行う
一九八六	61		関越自動車道が全線開通 第九回全国土地改良大会を新潟市で開催
一九八八	63		北陸自動車道全通
一九八九	平成元		食と緑の博覧会（ナイスふーど新潟）開催
一九九〇	2		本所排水機場完成
一九九一	3		蔵岡排水機場完成
一九九三	5		
一九九五	7		
一九九六	8		
一九九七	9		磐越自動車道全通
一九九八	10		全国都市緑化フェア開催（新潟市・新津市） 中・上越を中心に大雪 新潟市新光町に県庁新庁舎が完成 ソ連のチェルノブイリ原子力発電所で爆発事故起こる 青函トンネル開業 昭和天皇崩御、平成と改元 湾岸戦争起こる 東西ドイツ合併、統一ドイツ誕生 長崎県の雲仙普賢岳で火砕流発生 北海道の南西沖で地震が起きる 阪神・淡路大震災起きる 東京の地下鉄でサリン事件発生 巻町で原発建設の是非を問う全国初の住民投票が行われる ロシア船ナホトカ号の重油流出で海岸汚染 長野県で冬季オリンピック開催

創立50周年の記念に ―あとがきにかえて―

亀田郷土地改良区は一九九八年（平成十）十一月一日、創立五十周年を迎えます。今、亀田郷には組合員約五千名、新潟市の東側の大部分と亀田町、横越町を合わせて約一万一千ヘクタールの地域に二十五万人の人々が住んでいます。

この本でも分かるように、亀田郷が本格的に開拓されたのは、一六〇〇年代（江戸時代）に入ってからですが、一九〇〇年代の初めになっても、まだまだ沼地が多く残っており、農作業は大変な苦労が続いていました。

輪中とか江丸など、堤防を各集落ごとに築いて、集落単位で洪水の予防や用水や排水の管理をしていましたので、他集落との水争いも絶えず、生産量も上がらない品質の悪いお米しか作れなかったのです。

一九一三年の大洪水を機に、こんなことはしていられない、みんなで力を合わせなければと、その翌年、亀田郷水害予防組合が結成されました。一九

二二年に大河津分水が完成し、一九三三年阿賀野川改修工事が終わると、洪水の心配も少なくなってきました。

五年に一度は洪水に見舞われてきた亀田郷にも、ようやく乾田化への道すじができたのです。太平洋戦争が終わって、一九四八年栗ノ木排水機場ができると、もう待ったなしの土地改良事業が始まりました。

同じ年、亀田郷耕地整理組合（今の亀田郷土地改良区）ができ、農道や道路の整備、用・排水路の整備、耕地の再配分などに着手しました。土地改良には賛成の人、反対の人の対立もあったのですが、最後には完全乾田化によって〝良い品質のお米を多く生産したい〟それには〝用・排水を自由に調節できる耕地にする〟という農民みんなの同じ願いでまとまっていきました。

長い苦しい歴史の中で、一人一人の力ではできないことも、みんなが力を合わせればできるのだということを、亀田郷の人々は学んでいったのです。

亀田郷の五十年間は、決して平坦な道ではありませんでした。地盤沈下や

新潟地震、洪水にも遭いました。急速な都市化も色々な問題を私たちに投げかけました。

今、亀田郷土地改良区では、地域に住む都市と農村の人たちがより快適な暮らしができるようにと、さまざまなことを実行したり、計画したりしています。

コンピュータによる用・排水の集中管理、農家や住民のための情報ネットワークの整備、計画的な地域づくり、リサイクルや有機農業の推進、鳥屋野潟や各河川の水環境整備など、住民と一体となって取り組んでいます。

みなさんも、すばらしいふるさとづくりに知恵と力を借してください。

一九九八年九月

亀田郷土地改良区

理事長　阿部　佳弘

本書発行に当たっては新潟市、亀田町、横越町の各教育委員会のご協力をいただきました。

作　　画　蛭田　充（ひるた・みつる）
脚　　本　滝沢忠義（たきざわ・ただよし）
編集委員　江良正史（沼垂小学校）
　　駿河仁志（亀田西小学校）
　　高田良昭（横越小学校）
　　津野治彦（坂井東小学校）
　　松田洋之（新潟市郷土資料館）
校閲補助　斎藤康子（沼垂小学校）
参　　与　三村哲司（亀田町郷土資料館）
編集協力　スタジオグリーン
プロデューサー　藤倉朋良

まんが　亀田郷の歴史

1998年9月15日　第1刷発行

発 行 者　阿部　佳弘
発 行 所　亀田郷土地改良区
新潟県亀田町早通2329-1
☎(025)381-2131
企画・制作　亀田郷土地改良区創立50周年
記念事業実行委員会

かわだごう